



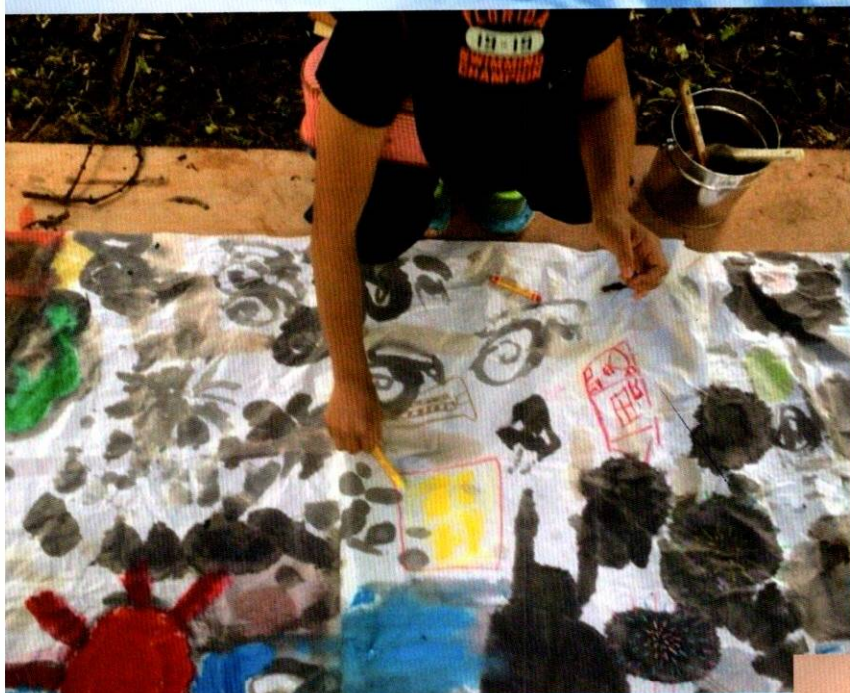
全道造形教育研究大会空知岩見沢大会

第55回 全空知子どもの作品を語る会岩見沢大会

〈大会テーマ〉

まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育

～ おもう・さぐる・つながる・つなげる ～



日時

2018年7月27日(金)

会場

岩見沢市立光陵中学校

岩見沢市絵画ホール

岩見沢市松島正幸記念館

主催 北海道造形教育連盟

後援 北海道教育委員会 北海道教育庁空知教

岩見沢市教育委員会 空知校長会 空知教頭会

主管 空知美術教育研究会 第68回全道造形教育研究大会運営委員会



第 68 回 全道造形教育研究大会空知岩見沢大会

第 55 回 全空知子どもの作品を語る会岩見沢大会



〈大会テーマ〉

「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」

～おもう・さぐる・つながる・つなげる～

期 日：2018 (平成 30) 年 7 月 27 日 (金)

会 場：岩見沢市立光陵中学校

岩見沢市絵画ホール松島正幸記念館

大地のテラス (参加者交流会・閉会式)

【主催】：北海道造形教育連盟

【後援】：北海道教育委員会 北海道教育庁空知教育局 岩見沢市教育委員会
空知校長会 空知教頭会

【主管】：空知美術教育研究会 第 68 回全道造形教育研究大会運営委員会

< 目 次 >

会 長 挨 拶	3
森 長 弘 美 (北海道造形教育連盟会長)	
運 営 委 員 長 挨 拶	4
鎌 田 俊 博 (第 6 8 回 全 道 造 形 教 育 研 究 大 会 空 知 岩 見 沢 大 会 運 営 委 員 長)	
祝 辞	5
竹 林 亨 (北海道教育庁空知教育局局長)	
三 角 光 二 (岩見沢市教育委員会教育長)	
大 会 日 程 ・ 公 開 授 業	7
会 場 図 ・ 分 科 会	8
北 海 道 造 形 教 育 連 盟 の 研 究	1 2
空 知 美 術 教 育 研 究 会 の 研 究	1 6
授 業 の 概 要	2 2
提 言 集	3 0
各 地 区 サ ー ク ル 活 動 紹 介	4 6
資 料 (連 盟 規 約 ・ 研 究 の あ ゆ み ・ 名 簿)	5 9
協 賛 広 告	6 8

大会シンボルマーク
空知美術教育研究会
舘山唯郎





ご挨拶

北海道造形教育連盟

会長 森 長 弘 美

「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」～おもう・さぐる・つながる・つなげる～を大会テーマに、第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会が、全道各地からご参加の皆様とともに、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、大会開催にあたり、ご支援いただきました北海道教育庁空知教育局、岩見沢市教育委員会、空知管内の関係の皆様、ご尽力いただきました空知美術教育研究会、会場をご提供いただきました岩見沢市立光陵中学校、および岩見沢市絵画ホール・松島正幸記念館の皆様方に深く感謝申し上げます。

さて、昨年3月に幼稚園の新教育要領と小中学校の新学習指導要領が、そして今年3月には高等学校の新学習指導要領が告示されました。幼稚園ではすでに今年度よりの実施となりましたが、小中学校、高等学校では、それぞれの移行期間を経て全面实施を迎えます。

今回の改訂では、「生きる力」をより具体化し、目指す資質・能力を「生きて働く**知識・技能**」「未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力等**」「学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性等**」の三つの柱に整理しましたが、いずれも一人の人間が社会を生き抜くために身に付けるべき要素を謳っています。また、この三つの柱は、「何を理解しているか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」として、学びが形となっていく過程をも語っています。「よりよい人生」とは「よりよい生き方」であり、「よりよい生き方」を支えるのは、一人一人が社会と直接的に関わる「仕事＝職業」であるといえましょう。

ご存知のように、今の子どもたちが社会に出て仕事に就く頃には、人工知能（AI）が人間に取って代わり、今ある職業の半数が消えるともいわれています。そんな中で、造形教育に携わる私たちが育成を目指す、造形的なよさや美しさを感じたり考えたりすること、発想し構想すること、創造する喜びを味わうこと、豊かな感性や情操を培うことなどは、人間にしかできない「感情」を伴う行為といえることから、創造を主とする職業はなくなることはないのではないかと予想されています。どんなに人工知能が発達しても、人間が美しいものを見て感じる力や、そこからイメージする力は真似のできないものであり、膨大に蓄積されたデータも、感動やひらめきの前では役には立たないでしょう。

さらに、よさや美しさに気づいて豊かに発想・構想し、それを形にするための方法を選んで手順を考え、材料を整え、時には話し合いながら計画に従って作業を進める…といった造形教育における主体的な学習活動を通して培った力は、デザインをしたり工芸品を作ったり、絵画を描いたり彫刻を作ったりする仕事だけに生きるものではなく、どんな職業においても「生きて働く力」となって仕事を円滑に進め、「よりよい人生を送る」ための糧となるに違いありません。

北海道造形教育連盟が掲げる研究主題「“わたし”を創る～今を生きる、共に生きる造形教育～」には、造形教育で育まれる固有の資質・能力だけでなく、汎用性のある「未来に生きて働く資質・能力」の育成をめざすという思いが込められていますが、これは「未来をよりよく生きるための資質・能力」であり、新学習指導要領の示す「よりよい人生を送る」に通じるものといえます。また、今大会のテーマ「おもう・さぐる・つながる・つなげる」も、造形活動のサイクルを幾度か繰り返したのち、最終的には一人一人の未来につながると捉えることができるのではないのでしょうか。

ご参会の皆様には、造形教育に求められている大きな役割を公開授業や分科会を通して感じていただき、大会の成果をこれからの取組や、表現、図工、美術の実践に生かしていただくことを願い、ご挨拶といたします。



おもいをつなげる

第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会 運営委員長 鎌田 俊博

スペインの世界遺産「アルタミラ洞窟と北スペインの洞窟壁画」、1万4500年前にクロマニヨン人が描いたそうです。動物を躍動感たっぷりに描いた彼らの作品は、壁画の多くは洞窟の数十メートル奥の、さらに人がひとり入れるかどうか、というほど狭い場所に描いてあるらしいです。彼らはなぜ、そんな場所に絵を描いたのでしょうか？

かつての定説では、狩りを成功させるために狩猟の対象である動物を描いたと言われていましたが、最近では動物が信仰の対象であったという説も考えられています。つまり、人に見せるところに描いていないのは、宗教的な意味合いを持って描いたのではないかとされているそうです。文明も文字も持たない原始的な人たちが、どのような意図で絵を描いたのか、興味は尽きません。しかし、そういうことを詮索すること自体ナンセンスなのかもしれません。つまり、彼らは描きたいと感じたものを本能的に描いた、ただそれだけのことなのかもしれませんからです。造形活動そのものが人間の本能的な活動であるとしたならば、授業の中で表現活動の方法を子どもに教え込むようなことはナンセンスと言わざるを得ません。昔から確認されてきたことですが、私たちがすべきは「作品」の作り方ではなく、図工・美術の授業を通して子どもを育て、人格の完成に導くことです。

空知美術教育研究会は、「実践から理論を作ろう」とする研究姿勢から生まれました、異色の団体です。そこには様々な立場の人が集い、子どもの作品を通すことを基盤に、子どもの生活、思いや葛藤、作品づくりを通した子どもの変容や学び、教師の気づきや関わりなど、子どもの姿を語り合い、交流し合う泥臭い研修を55年間脈々と続けてきました。本大会では、わたくしたちが積み上げてきた大きな財産を、全道よりお集まりいただいた方々に還流することで、まなざしの共有を図るとともに、これまで私たちに多くのことを教え、導いてくださった沢山の子どもたちや諸先輩方に少しでも恩返しができるのであれば幸いです。

結びになりますが、本研究大会の開催に際しまして、北海道教育委員会様、岩見沢市教育委員会様、さらには各関係機関の皆様方に深いご理解とご支援をいただきましたことに心よりお礼を申し上げます。また、北海道造形教育連盟の役員並びに会員の皆様方からの温かいご支援にも感謝申し上げます、運営委員会を代表しての挨拶といたします。



第 68 回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会の開催を祝して

北海道教育庁空知教育局
局長 竹林 亨

第 68 回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会が、全道各地から多くの先生方をお迎えし、ここ岩見沢市において、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、長年にわたり、全道各地において研究大会を開催し、本道における美術教育の充実・発展に先導的な役割を果たしていただいております、重ねて感謝申し上げます。

さて、4月から移行措置が始まった新学習指導要領においては、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、子どもたちが各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視した学習の充実を図ることが求められております。

こうした中、図画工作科・美術科においては、感性や想像力等を豊かに働かせて思考・判断し、表現及び鑑賞の資質・能力を相互に関連させる造形活動を意図的・計画的に行い、教科において身に付けさせる資質や能力を確実に育むことが一層重要となります。

このため、図画工作・美術の授業づくりにおいては、図画工作や美術を学ぶことに対する必要性を実感させる生活や社会との関連を意識した題材を工夫するとともに、児童生徒一人一人が表したいことやつくりたいこと、見たいことなど、各題材において自ら主題をもつことを重視し、表現の学習において発想や構想することや創造的な技能を働かせること、鑑賞の学習において作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことなどが相互に関連して働くよう指導過程を工夫するなどして、「主体的対話的で深い学び」を実現する必要があります。

このような中、本研究大会が「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」を大会テーマとして掲げ、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校の先生方が一堂に会し、研究授業やワークショップ、分科会を通して、美術教育の専門性を高められることは大変意義深いものであり、大きな期待を寄せるところであります。

結びに、本研究大会が皆様にとって実り多いものになりますことを御期待申し上げますとともに、開催に当たり、御尽力されました空知美術教育研究会のますますの御発展と御健勝、そして全道会員の皆様のさらなる御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会の開催を祝して

岩見沢市教育委員会

教育長 三角 光 二

第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会が「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」～おもう・さぐる・つながる・つなげる～を大会テーマに、岩見沢市を会場に開催されることに対しまして、心より歓迎とお祝いを申し上げます。また、日頃より、造形教育の振興にご尽力をいただいております関係者の皆様に、心より敬意を表し感謝申し上げます次第です。

造形教育は、児童生徒の人格形成に寄与するものです。形や色やイメージを媒介に、つくることの喜びを味わいつつ、他者や社会と関わる中で創造性や感性を高める教育です。ですから指導者は、児童生徒が自らの心や体を十分働かせるとともに、他者との関わりを通して学びを共有し、表現したり鑑賞したりすることの楽しさを味わうことができるよう、指導者としての力量を高めていくことが重要となってまいります。

図工や美術の指導においては、子どもの表現に対して愛情をもち、共感し、支援する姿勢や、題材についての専門性を高め、子どもが楽しく主体的に学習できる場を工夫する姿勢が大切であると考えるところです。また、地域や関係する方々とコミュニケーションを通して理解し合い、より広がりのある学びの場を設定することや、芸術や文化に対する好奇心をもち、それらを楽しむ豊かな感性を自ら高めていくことなども重要ではないでしょうか。

しかし、こうした指導力は、そう簡単に身に付くものではありません。だからこそ日々の実践や研修を通して、指導観や指導技術を高めていくことが求められます。本大会を主管する空知美術教育研究会は、これまで50年以上にわたり子どもの作品を通して実践を交流する「全空知子どもの作品を語る会」を開催してきた歴史があります。作品に表れる子どもの想いや変容、授業者の想いや地域の実態といったことの交流を通して、新たな実践につなげてきたことと思います。そこには、子どもの姿に学び、自らの実践力の向上に取り組む教師の姿を見ることができます。

この度の空知岩見沢大会では、全道の造形教育、図工・美術教育に携わる教師・関係者が一堂に集い、公開授業、分科会、子どもの作品を語る会などを通して高め合える場になることを大いに期待しております。

最後になりますが、本研究大会の開催に向けて準備を進めてこられました役員の皆様に深く敬意を表しますとともに、北海道造形教育連盟をはじめとする関係者の皆様の益々のご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

日 程

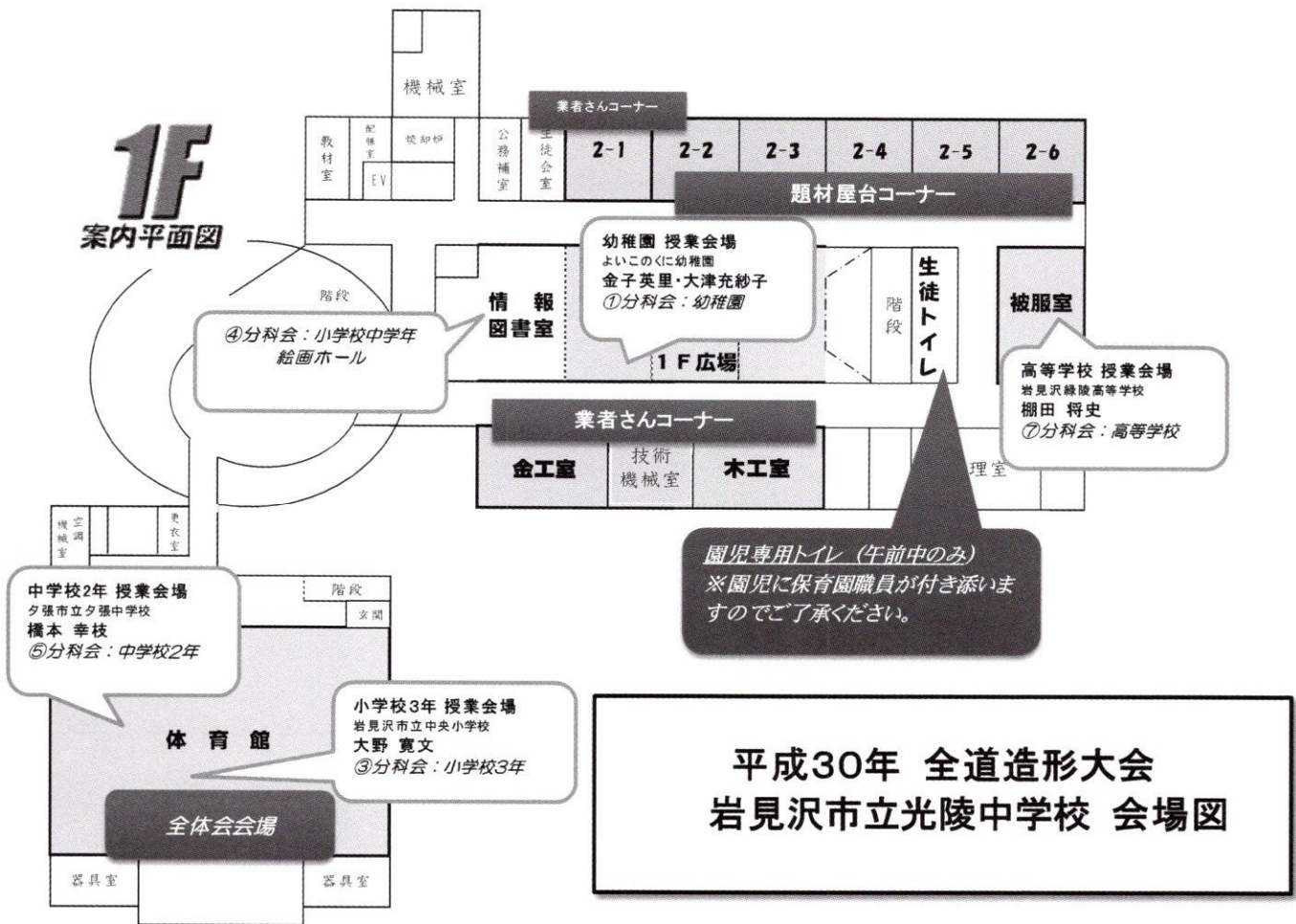
8:30 9:00 9:40 11:00 11:15 12:30 13:30 16:00 18:00 20:00

受付	開会行事 研究基調	公開授業 (時差公開)	移動	題材提案型 ワークショップ 題材屋台	昼食休憩	分科会 子どもの 作品を語る会	移動	レセプション 閉会行事
----	--------------	----------------	----	--------------------------	------	-----------------------	----	----------------

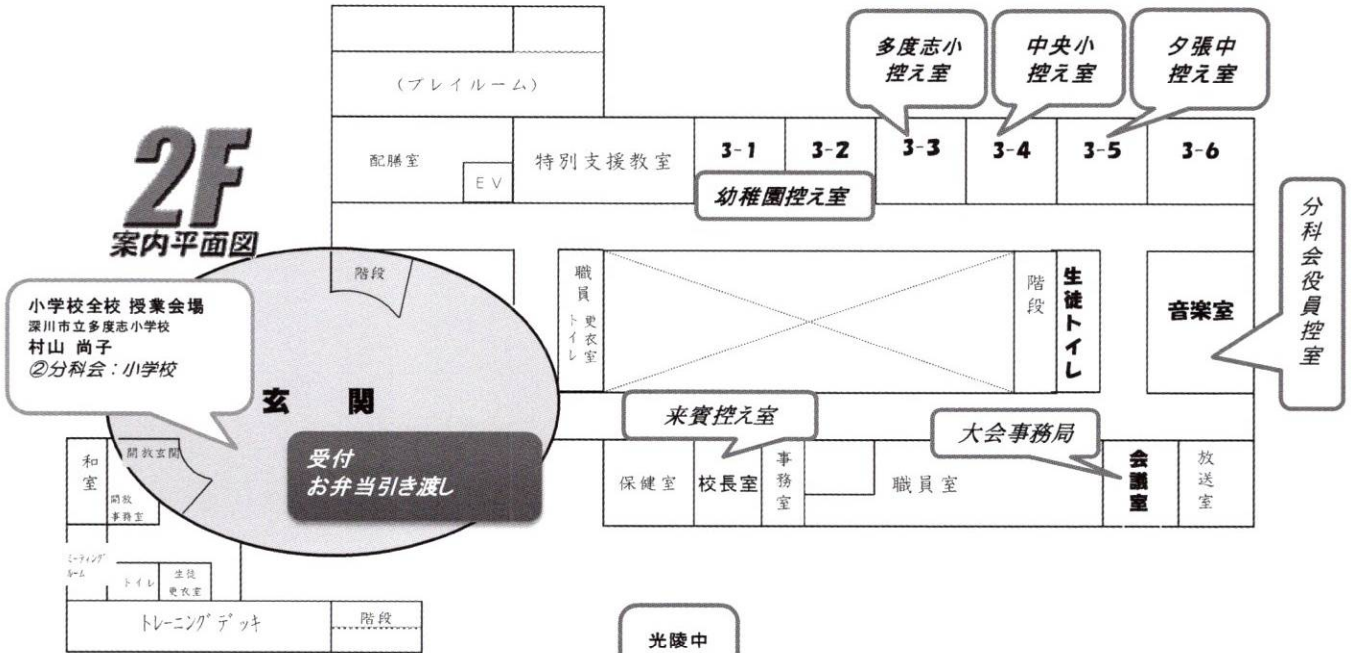
公開授業

授業番号	校種・学年 開始時刻 (時間)	題材名	授業者	所属	授業会場
① つなげる	幼稚園 年中組 9:50 (70分)	「子どもの見る世界～もりのおふろ」 (表現・工作)	金子英里 大津充紗子	よいこのくに 幼稚園	1階広場
② おもう	小学校全校 10:05 (45分)	「た・ど・し・の・わ・た・し」 (表現・工作)	村山 尚子	深川市立 多度志小	2階玄関 ホール
③ さぐる	小学校1年 9:50 (45分)	「コロコロべったん」 (表現・絵画)	大野 寛文	岩見沢市立 中央小学校	1階 体育館
④ つながる	小学校3年 10:00 (45分)	「美術館へ行こう」 (鑑賞)	佐々木 紗	岩見沢市立 中央小学校	岩見沢 絵画ホール 松島正幸 記念館
⑤ さぐる	中学校2年 10:00 (50分)	「見えるかな～パッケージのデザイン」 (表現・デザイン)	橋本 幸枝	夕張市立 夕張中学校	1階 体育館
⑥ おもう	中学校3年 9:45 (50分)	「心の窓～未来の私に向けてのエアール」 (表現・絵画)	三森 彩美	岩見沢市立 光陵中学校	多目的 ホール
⑦ つなげる	高等学校 10:10 (50分)	「見える音・聞こえる形」 (表現・絵画)	棚田 将史	北海道 岩見沢 緑陵高校	1階 被服室

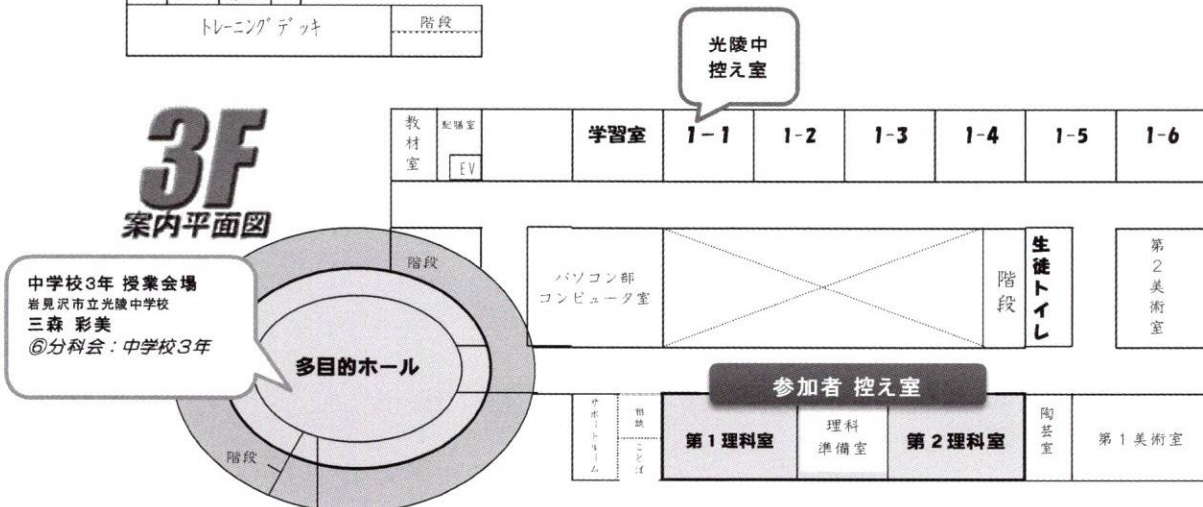
1F 案内平面図



2F 案内平面図



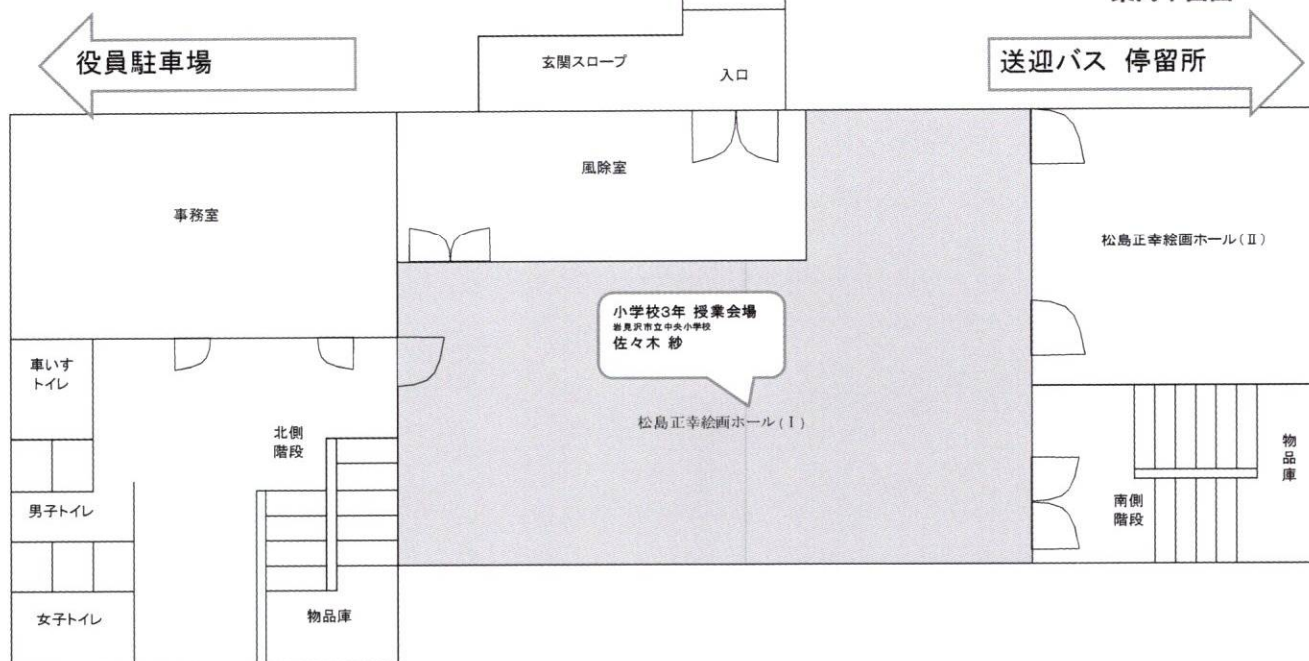
3F 案内平面図



平成30年 全道造形大会
岩見沢市絵画ホール・松島正幸記念館
会場図

1F

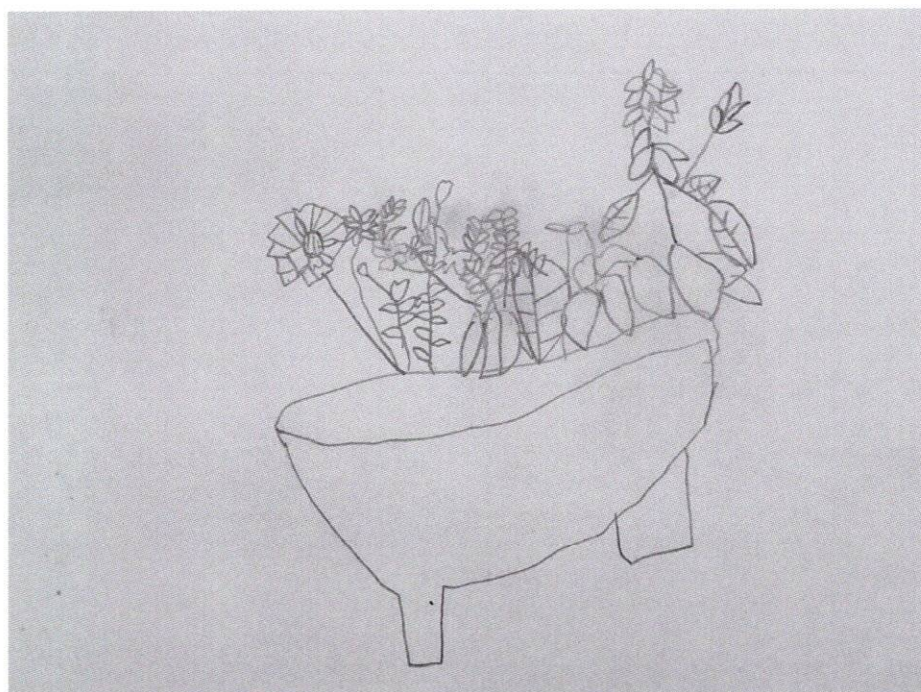
案内平面図

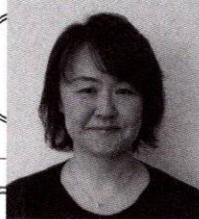


分科会

分科会	提言	アドバイザー	ガイド	記録
① つなげる	深川市多度志保育園 園長 殿平 真 大谷 紋歌	旭川大学付属幼稚園 園長 渡辺 盛二	美唄市立中央小学校 石出 亜矢子	北竜町立真竜小学校 岩倉 澄恵
② おもう	札幌市立福井野小学校 鈴木 美奈子	北海道教育大旭川校 教授 北海道教育大付属旭川小学校 校長 南部 正人	美唄市立茶志内小学校 上杉 真智子	深川市立一巳小学校 栗田 友恵
③ さぐる	留萌市立留萌小学校 小澤 なつき	北海道教育大岩見沢校 教授 阿部 宏行	赤平市立赤間小学校 遠藤 孝之	砂川市立空知太小学校 西野 和美
④ つながる	教育大釧路付属小学校 登藤 珠実	岩見沢絵画ホール 松島正幸記念館 館長 白井 万壽子	恵庭市立恵庭中学校 棚田 裕美	浦臼町立浦臼小学校 舘山 恭子
⑤ さぐる	旭川市立神居中学校 西村 徳清	北海道教育大札幌校准 教授 花輪 大輔	妹背牛町立妹背牛中学校 本間 真紀	旭川市立明星中学校 成田 慎司
⑥ おもう	千歳市立勇舞中学校 渡邊 麻子	深川市アートホール東洲館 館長 渡辺 貞之	岩見沢市立豊中学校 岩井 敦子	砂川市立石山中学校 金子 智里
⑦ つなげる	北海道深川西高校 野村 幸伸	札幌大谷大学 教授 平向 功一	北海道旭川北高等学校 板谷 諭使	北海道帯広三条高 塩田 晃

造連の研究





北海道造形教育連盟の研究

北海道造形教育連盟

研究部長 中村珠世

1 研究主題設定の背景

急速に進む超少子高齢化と人口減少社会を迎えた現在、社会・経済的、文化活動が地球規模で拡大し様々な影響を及ぼすグローバル化の大波にも晒されている。さらに、23年3月11日の東日本大震災以降、未曾有の自然災害や原発事故、エネルギー資源の有限化などの社会状況の変化の中で、未来を担う子どもたちにはこれまで経験したことない新たな課題を見出し、それらの最善解を生み出す力が求められるだろう。今を生きる子どもたちが、これらの時代に求められる「生きる力」を確実に身に付け、一人一人の可能性を最大限に伸ばすよう、育成すべき「資質・能力」及びそのための「教育目標・内容」、「評価」の在り方を明確にする必要が学校教育に求められている。

造形教育を担う私たちは、知識基盤社会と言われ学力の向上が教育界の命題となっている今だからこそ、表現・図画工作・美術・工芸といった造形教育が今、教室で生き、未来に社会で生きる子どもたちに培うことができる「資質・能力」を明確に意識し、一つ一つの授業の中で「目標と評価」を位置付けることを通して、教科としての造形教育の存在意義を主張していくことが、子どもたちのために必要であると考えます。

では、知識基盤社会の中で造形教育が育むことができる「資質・能力」とはどんなことであろうか。教育学者である上智大学の奈良正裕氏は著書「教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり」(2015年)の中で次のように述べている。

図画工作の「材料を基に造形遊びをする」では、あらかじめの意図や計画ではなく、材料との間にその都度生じるたぶん偶発的な出会いと、その子どもによる闊達自在な必然化や絶えざる繰り返しにより、美的な創造の営みが展開されていく。そこでは、本来異なるカテゴリーに属するもの同士を独自の視点や理路により大胆に「つなげる」「見立てる」「たとえる」といった思考の様式、かつてレヴィ＝ストロースが「野生の思考」と呼んだものが豊かに作動している。要素技術の思いもかけない新領域への適用や限られたリソースを駆使して高い付加価値を有する商品開発をする場合など、知識基盤社会での新たな知や価値の創造において、この「野生の思考」が豊かに発揮され、目覚ましい成果を挙げていることは疑いの余地がない。それは産業社会を支えてきた近代合理主義に基づく一方的で等速直線運動的な発想や構想の様式とはすっかり異なるものであり、従

フランスの文化人類学者クロード・レヴィ＝ストロースは、その著書「野生の思考」(みすず書房 1976年)の中で、素材や技術の思いもかけない新領域への適用や限られたリソースを駆使して高い付加価値を有するものをつくり出すことを「ブリコラージュ」と呼び、近代以降の「エンジニアリング」の思考＝「栽培された思考」と対比させ、人類が古くからもっている知であり、近代社会にも適用されている普遍的な知の在り方だと述べている。

造形教育で育まれるブリコラージュする力

- ・材料や場所に働きかけて価値を生み出す力
- ・たくさんの材料や表現方法から選択する力
- ・選択したことを組み合わせる力
- ・失敗しても立ち上がることができる力
- ・助け合いながら互いに協働する力
- ・楽しさや美しさをなど「感じ」を捉える力
- ・お互いのつくり出した価値に共感する力

この「資質・能力」の育成は、何も小学校の造形遊びでのみ可能なのではないと考える。幼児教育のごっこ遊びであったり、平面や立体と言った表現様式を組み合わせた題材であったり、平面表現であっても様々な材料を組み合わせた題材であったり、中学校や高等学校における具象的な表現と抽象的な表現を組み合わせ、心象や内面を表現する題材においても育成できると考える。近年の教科書題材に領域の境目が無くなり多様な表現が多く扱われているのも、このようなコンピテンシー育成に基づいていると推察される。

このように、本来造形表現活動には「ブリコラージュ」の思考的要素が内在されており、私たち造形教育に携わるものは、「どのように造形的内容を教えるか」といった「コンテンツ・ベース」的な教育観から、「どのような資質・能力を育てるか」という「コンピテンシー・ベース」育成へ教育観のシフトが求められているのである。しかしこれは何も新しいことではない。アメリカの教育学者ヴィクター＝ローエンフェルド著「美術による人間形成」(1947年)で述べた、「美術を教える」のではなく「美術を通して教える」という教育観と何ら変わるのではなく、造形教育ではどんな「資質・能力」を育成するのかをより意識していこうというものである。また、同著から造形教育と子どもの発達の関係の重要性は周知の通りであり、子どもの「未来」を見据え「今」どのような学びが必要なのかを時間軸で捉え、「資質・能力」の育成という観点で再考していく必要がある。

加えて、造形教育が教科という学校教育としての集団での学びであることを踏まえ、一人一人の「資質・能力」の育成を「協働的な学び」の中で効果的に高めていけることも実践していけなくては、私たち自身が造形教育の存在価値を自覚し自信をもち子どもたちに授業を提供し、他に価値を主張することはできないと考える。

これまででも、共同制作という学習課題や造形遊びや〇〇ワールドづくりなどで自然に生まれた接点から偶発的に共同制作が始まる「協働的な学び」は存在した。しかし、そのようなある特定の学習内容ではなく日常の造形活動中で、子どもの必然が伴った「協働的な学び」を成立させていくにはどのような手立てが必要なのだろうか。

知識基盤
社会の中の
造形教育

造形活動に
内在する
知識基盤社会を
生きる「知」

コンテンツ
・ベースから
コンピテンシー
・ベース育成へ

造形教育
における
協働的な学び

自立と共生の
新たな関係性

ロシアの心理学者レフ・セミアノビッチ＝ヴィゴツキーは、著書「思考と言語」(新読書社 2001 年)の中で、有名な「発達の最近接領域」ということを提唱している。ヴィゴツキーは子どもの発達について二つの水準を分類している。ひとつは、既習などを生かし与えられた問題や技能を自主的に解決することができる領域である。今ひとつは、一つ目の領域に近接しながらも既習などでは自主的には解決できない問題や技能であっても、他者と交わることで解決に成功する領域で、これを「発達の最近接領域」と呼んでいる。子どもが仲間と交わり協力し合うときのみ、その学びは多様な内的発達過程を覚醒し、いったんこのような過程が内化したならば、それらの過程は子どもの自立的な発達の成果の一部となる。その自立心がまた可能性を生み出し、その可能性が他者との交流を生み出し内化し、「自立のサイクル」を生み出すと提唱している。

前次の研究「自立と共生の造形教育」では、一人一人の学びが「自立」していることで「共生」の学びが成立すると仮説を立てていた。しかし、「共生の学び」＝「協働的な学び」が子ども一人一人の「自立」を促すという、「自立した学び」と「協働的な学び」が双方向に相乗的に効果を有するという新たな研究の方向性が見えてきたのである。

以上のような新たな教育課題とこれまでの全道造形教育研究大会の研究成果から、研究主題を以下のように設定した。

“わたし”を創る
～今を生きる、共に生きる造形教育～

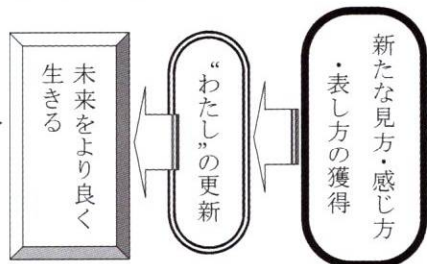
この研究主題は「学習指導要領の改訂を見据え」チーム北海道の仲間と意見交流を繰り返した中から生まれている。また、前回同様、副主題は設定しない。各地区サークルの研究が、本研究主題を具現化するそれにあたるものと考えているからである。

2 研究内容 I

“今”“わたし”が生きる造形活動の在り方とは

子ども自らが自己選択し自己決定していく、主体的な造形活動を通して新たな見方・感じ方・表し方を獲得し、自己を更新していくというこれまでの研究の内容は踏襲しつつも、造形教育で育まれる固有の資質・能力だけでなく、汎用性のある未来に生きて働く資質・能力の育成をめざしていく。

“今”意味ある
造形教育を通して
“未来”を創る



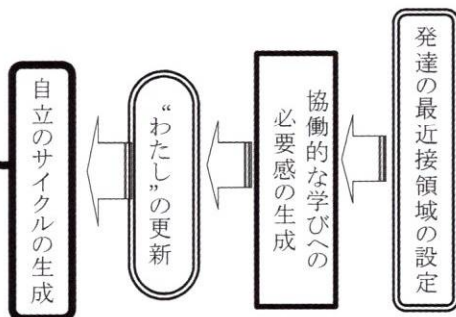
- 自己流ではない教科書題材を基にしたバランスの良い題材配置によるカリキュラム構成
- 作品主義ではない資質・能力育成を中心に据えた授業構成
- 画一的な指導によらない子どもが主体的に学ぶ授業の実践
- 子どもの思いに寄り添った教師の関わり

3 研究内容 II

“わたし”が高まる“共に生きる”造形活動の在り方とは

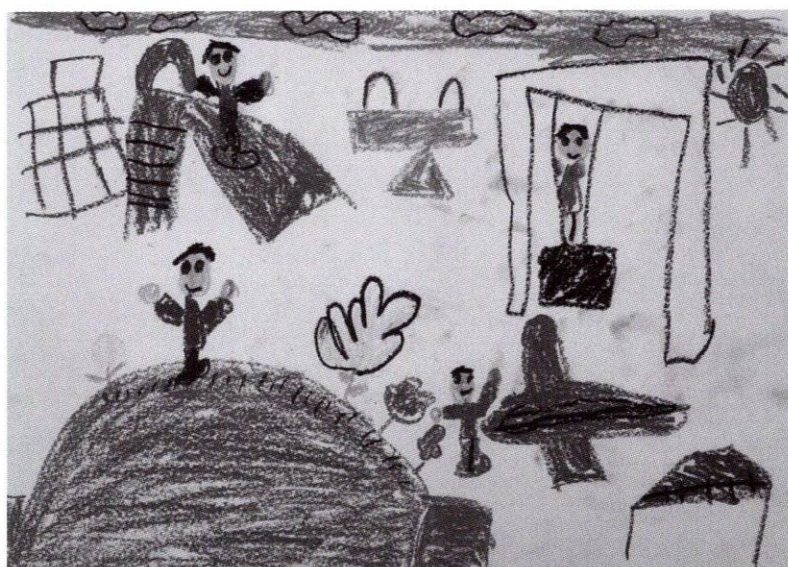
人の世界観の最小単位が自分であり、成長と共に世界が広がっていく。そして、発達の最近接領域における協力者も成長に伴い親や先生から仲間置き換わってくることを考えると、協働的な学びの在り方には発達ということが大きく関係している。また、指導者が子どもの思いを可視化したいがために交流を促したり、一人の子の発想や技能のよさを他に広めたいがために交流を促すなど、指導者の必要感が子どもの必要感と一致していないと、単に子どもの造形活動の時間や意欲を奪う結果になりかねない。子どもの必要感から生まれる協働的な学びが成立していないと、お互いに自立を促す学びにはならないと考える。そのためには、以下が達成されている必要がある。

発達と
必要感に
裏打ちされた
協働的学び



- これら全ての
- 子どもの発達段階の的確な把握
 - 題材への興味・関心の吟味
 - 材料・用具、鑑賞対象の抵抗感
 - 発想や技能の抵抗感
 - 題材の目標の設定
 - 授業デザインの構造化
 - 題材の構造的な配列
 - 机の配置など造形環境の設定
 - 時間や場所の保障

空美の研究



第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会
第55回全空知子供の作品を語る会岩見沢光陵中大会

大会テーマ「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」

空知美術教育研究会研究部長 桔梗 智恵美

1 子どもたちが生きている現代の空知

空知は、北海道でも炭鉱の発展とともに鉄道や道路などの流通手段が得られ、人口の増加とともに町がひらかれました。空知管内の市町村の多くは豪雪地帯であり、大雪山系からの雪解け水を集めた石狩川などの自然の恵みをうけ、その年の豊かな恵みを生かした農業も盛んです。しかし、現代になって各地の炭鉱の閉山や離農など、過疎化や高齢化が進む地域も多く、各市町村の小中学校の学校数も減少してきました。

岩見沢市は石狩川の下流にあたり、広大な石狩平野で、現在は特に稲作の他にも、札幌圏へ供給する畑作による野菜の供給などが行われ、空知の農業と工業の流通の要となっています。

北海道の多くの地域が抱えるように、雇用の減少による若い世代の都市部への流出、情報の多様化、子ども達にも及ぶ地方格差や生活の格差、共感の不足など、現代的な悩みや課題をかかえながら、空知では、それぞれの子ども達の状況をみつめています。

2 「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」 ～わたしたちが考える「図工・美術の時間」

空知では、15年前に第53回全道造形滝川大会を開催しました。この大会では、研究主題を「心豊かに未来に生きる造形教育」とし、キーワードを「ふれあう」「さぐる」「つくりだす」として研究を進めました。

大会テーマに「まなざしを共有し」という言葉を入れてきたのは近年の「全空知子どもの作品を語る会」のことです。これは、「子どもと同じ目線に立って、子ども自身の身近な生活を創造意欲につながる物事を、題材として見つけ出していきたい」という考えからです。

「おもいをつなげる」の「おもい」の中には、主体的な自分なりの願いをはらんだイメージである「思い」と、形や色などから相手の気持ちを感じたり受け止めたりすることから生まれる他者（…場所や素材や記憶なども含む）への「想い」の二つの意味を込めています。

子どもの表現が、他者と「つながる」ためには、子どもの「おもい」を大切に受けうけとめる教師や仲間の存在が必要になります。自分と向かい合いながら、伝えたい誰か・何かへ、形や色などに「おもい」を込めながら造形活動を行うことは、とてもパーソナルで繊細な活動です。この「おもい」を表現するための試行錯誤の保証は重要であると考えます。

この「おもいをつなげる」ことで、生活や社会の中の形や色などに、それぞれの「おもい」が込められていることが分かり、これから生きていく力として、互いを尊重しあう学びや人間関係の構築がなされていく一助になります。

また、「子どもの作品」を語る際には、「作品主義」に陥らないためにも、図工・美術の時間と信頼関係も含めた空間も「子どもの作品」であることを意識する必要があります。

2017年に告示された今回の学習指導要領の改訂では、前文が新設されました。そこには「これからの学校には、一人一人の児童（生徒）が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とされています。

また、学習指導要領が果たす重要な役割として、「各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、

長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。」とも書かれています。

今年度2018年は今回の学習指導要領改訂の移行期にあたります。空知美術教育研究会として、空知の各市町村を巡りながら行ってきた研究の場である「子どもの作品を語る会」の研究を基盤にしながら、現場の先生たちとともに「図工美術の時間」である授業づくりを見直していきたいと考えています。

一人ひとりの子どもが互いを認め合い、学び合い、共に生きる社会をつくり、一人ひとりの「おもい」を他者や社会と「つなげる」ために、わたしたちが図工美術の時間にできることは何か。どう「つなげる」ことができるか。研究する上で4つの要素を整理しました。

3 まなざしを共有し「おもい」をつなげる子どもの姿のために ～おもう・さぐる・つながる・つなげる

第53回全道造形滝川大会では、「ふれあう」「さぐる」つくりだす」であったキーワードを4年後の第44回子どもの作品を語る会赤平豊里小大会に「おもう」「さぐる」「つなげる」として整理しました。

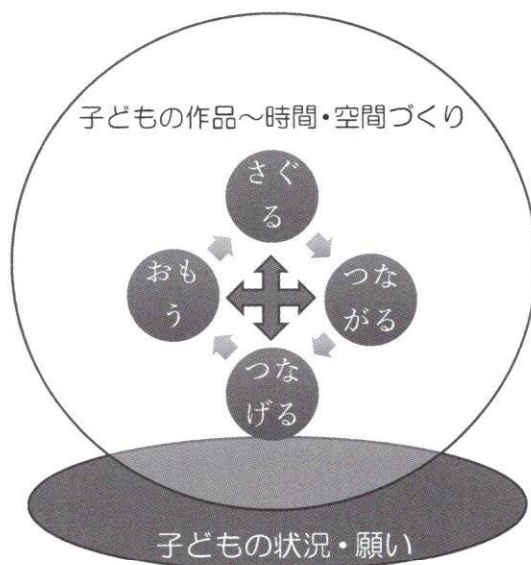
「ふれあう」から生まれた「おもい」を「つなげる」ことを大切にしたいと考え、つくりだす子どものつぶやきが拾える空間づくりを目指し、子ども参加型の題材屋台(～現在の「出前！図工室」)を始めました。「おもう」「さぐる」「つなげる」という3つのキーワードで出前図工室案を作成し、10年が経過したところで、「つなげる」ときに存在していた、キャッチする「つながる」に気がきました。素材や生活の中の小さな出来事が心に残る、誰かの「おもい」を感じ、うけとめること＝「つながる」という要素が必要ではないかと考え、キーワードを追加したのが昨年第54回浦臼小大会ときのことです。

① おもう ～ 一人ひとりの願いをいかす

活動する子どもの動機や、願いをもとに、子どもたちが「つくりたい」「描きたい」「形に残したい」と思える題材設定をすることが重要です。

描いたりつくったりする時間を紡いでいくなかで生活の中に気が付きが生まれ、心に残ったことを覚えておきたい、というように、もの見方が焦点化されます。

子どもたちが、自分の感じたことを大切に、小さな自己決定を重ねられるように、安心して人と少し違うそれぞれの見方を表すことができるような環境の設定(つながる)が必要です。



② さぐる ～ 試行錯誤を保証する

試行錯誤した自分が信じられれば、それが自信となり、やがてそれが自分自身の「おもい」や「つなげる」につながっていくのだと考えます。このように夢中になり試行錯誤を繰り返していく行為によって自分自身の判断・決定が自信に裏打ちされるようになります。

素材を通して感じる・考えることや、方法・手立てを考え、工夫するなど試行錯誤の機会と時間の保障をすることが必要です。

生活に役立ってきた道具の知恵を手渡しすることで、つくりだす活動の過程や過去の人々の思いを大切にすることにもつながると考えます。

③ つながる ～ 「おもい」を受けとめ関係をつくる

同じものを見ていても、人によって共感するところ、違った見方・感じ方をするとところがあります。自分の「おもい」が大切にしてもらえることで他人の作品の中にこめられた気持ちを大切に受けとめることができるようになるのではないかと考えます。

そのためには、一人ひとりの「おもい」や試行錯誤を受けとめる環境の設定や信頼関係が必要です。そのことによってお互いを尊重し、多様性を生かしあうことへと発展していくのだと考えます。

④ つなげる ～ 「おもい」を伝えて関係をつくる

「おもい」を形にし、誰かのことを考えて贈ったり、自分の生活の中で使ったりする目的意識が表現したい気持ちにつながります。

未来の自分・過去の自分が、今の自分を見ているというような、客観的なものの見方をすることで、自分に対しても他者としての視点が得られます。造形活動を通して、自分を見つめ、他者へ自分を伝えることで学級経営も含む人間関係や信頼関係をつくっていくことができます。

このように4つの要素は関連し合いながらぐるぐると螺旋状にめぐりながら高まっていきます。そして、子どもの作品を語る私たちにつながっていき、私たちの背景にある社会につながっていくものと考えます。

4 わたしたちが「子どもの作品を語る」ときに考えること ～「題材の生まれるところ」

「子どもの作品」という言葉には、活動している子どもの背景・おもい、子どものその時の表情や仕草、つぶやきなど、子どもの「時間や空間」を含みます。ということは、「子どもの作品を語る」ことは、一人ひとりの子どものおもいをくみ取り、理解しているか、ということに気がつくことにつながります。子どもと共に、迷ったこと・悩んだことに自らの反省と展望をもつことが大切だと考えます。

作品を通して、見えるその子の変容とともに、見えなかった「おもい」があります。実践を振り返る中で、気になる作品（子ども）について客観的、多面的に共有し、それぞれの教室に持ち帰ったところが、「題材の生まれるところ」になります。

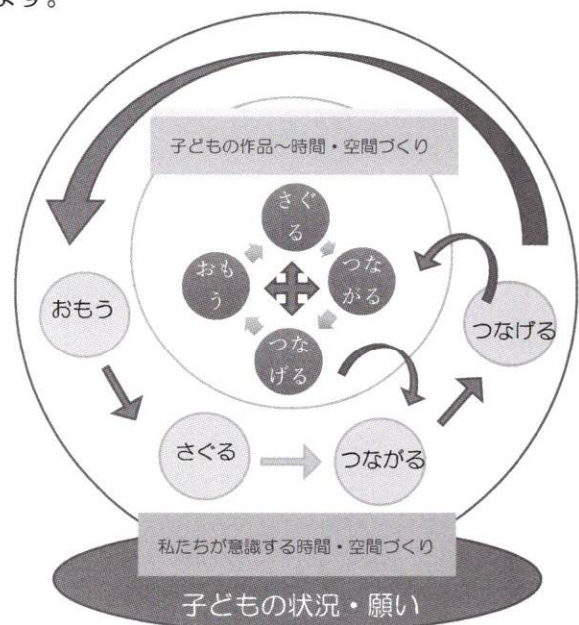
「子どもの作品を語る」ときに ～4つの要素を考えて語ることができます

「おもう」…この作品を通して私たちは、子どもに何に気付いてほしかったか。この題材は、どういうことから生まれてどう導入したか。子どもがどう変容したか。

「さぐる」…素材、手立て・方法、道具、など、気付きや発見、手渡したい文化的背景などを、どのように焦点化したか。

「つながる」…子どもたちの「おもい」を受けとめ、共感してほしいことを探ったか。

「つなげる」…展示方法や飾る場所、贈る、使うなどの目的性をもって取り組んだか。保護者



や地域の方々・先生方と共有したい子どもの姿などをエピソードなどでみとったか。
題材を振り返る時に、私たちは学習活動の評価をおこないます。今回は学習指導要領の移行期に
当たることもあり、授業は現行の4観点を念頭に評価を行う予定ですが、新学習指導要領の3つの
柱との関係については以下のように整理して考えました。

- おもう ～焦点化したい子どもの「おもい」・願いなど
現行<造形・美術への関心・意欲・態度><発想や構想の能力>
新<学びに向かう力・人間性等><思考力・判断力・表現力等>
- さぐる～焦点化したい試行錯誤など
現行<創造的な技能>
新<思考力・判断力・表現力等>新<知識・技能>
- つながる～文化的背景の受け取りなども含め、多様性を受容することなど
現行<鑑賞の能力>
新<知識・技能>新<思考力・判断力・表現力等>
- つなげる～感覚や手を通して考えたことを伝える・表現し、関係を作ることなど
現行<造形・美術への関心・意欲・態度><発想や構想の能力>
新<学びに向かう力・人間性等><思考力・判断力・表現力等>

子どもたちの学びの場を保障する時に、私たちはどのように自分たちが文化的な背景から学び、
創造性をもって人間らしく生き続けられるか？今後も、より多様化する時代において、感性を働
かせ、それぞれの居場所をつくっているのか、ということが問われています。

わたしたちは一人ひとりの子どもが抱える日常の物語をすべて知ることはできません。
わかりあえない部分をもっていて、少しずつ違うからこそ、知りたいのです。そして少しずつ
違う個性をもった仲間たちがいることによって、どんな困難にも対応できることを知ります。
空知美術教育研究会は、このように「子どもの作品を語る」ことを通して「実践から理論を作
ろう」とする研究の姿勢からうまれました。

5 基調「持ち寄り、語ることから始めよう」 ～ 空美の研究が生まれたわけ

55年前に滝川市内の蕎麦屋の2階に、クラス全員の子どもの作品を風呂敷に包んで持ち寄った
美術教師たちがいました。コンクールなどによる作品主義やレポートの厚さなどではなく、子ども
の作品を通して日常の子どもとの深い関わりを大事にする研究を主旨とするものでした。その後、
空知管内の小中学校を会場に、「全空知子どもの作品を語る会」が発足しました。そして、その活動
を支えるために生まれたのが空知美術教育研究会です。

基調として「持ち寄り、語ることから始めよう」と掲げたのは、クラス全員の作品を持ち寄って
集まることを大切にしようということが第一にあり、それは教師が自分の価値観で選んだ作品だけ
を持ってくることを防ぐためのものでした。これは、
子どもの作品に根ざし、目の前の子どもたちを語る際
に一般論に陥ることを避けるためでもありました。

子どもの作品を語るときには、子どもの生活と活動
の様子を知っている必要があります。子どもの「おも
い」をくみとり、子どもを理解しようとしていけば、
子どもの見ているもの、描きたいと感じるものを知る
ことができます。そこに、「教師の願いにより教師が作
らせた作品」ではない、「子ども自身が自らの思いを表
したという自覚のある作品」が生まれてきます。



子どもの作品を語る会では、子どもの作品を大切に扱うことを重視してきました。作品を真ん中にして同じごぎに私たちは靴を脱いで座ります。作品を靴で踏まないよう、作品を皆で手に取って触れられるよう、また作品をクラスの子達のように一望し、平場でガイドが進行して、持ってきてくれた先生の話から、子どもたちの姿が語られるようにということを大切にしてきました。

全道造形大会でもできるだけ多くの参加者の皆さんの「子どもの作品」を通して北海道各地の「子どもの今」を知る機会を大切にしたいと考えています。

題材屋台

無人でも題材を紹介できるコーナーを15年前の全道造形滝川東小学校大会で行ったのが最初です。先生方も子どもの気持ちになって、持ち帰ってどんな風にしたら自分の教室の子どもたちが喜んで活動するか、ということ思い巡らす…そこが「題材の生まれるところ」だと考えました。

出前！図工室

本来の授業は、日常生活をともに過ごし、子どものことをよく理解した先生が題材を設定して初めて成り立つものです。それまで「工作祭り」としていたところを子ども参加型の「題材屋台」とし、その後、作って遊んで体得する子どもたちの姿を、工作以外でも見られるように…、というのがこの取組でした。子ども参加型で、題材の導入や子どもの姿を見る中で、どのように声をかけ、どのように関わるか、ということなどに焦点を絞った取組としました。



6 空知美術研究会として ～深化し「つながる」研究のために

今回の全道造形大会は、毎年空知管内の小中学校を会場校に行っている「全空知子どもの作品を語る会」をもとに運営をしています。

会員数も減少し、多忙化する現在の教育現場で、教材研究をすることも、子どもとゆったり笑い合う時間もままならないなか、この研究を続けること自体が難しいことかも

しれません。それでも、図工・美術の時間や、子どもとの毎日に悩める私たちに、空美黎明期に空知の先生達は、「無思想・無方向」「一歩前進！～一人の100歩より100人の一歩」と、この会を始め、残してくれました。参加することで子どもの「おもい」や変容に気づき、自分自身で課題を掴み、帰っていく、そしてまた次の年にこの会に集まってくる。現会員はこの研究に育てられてきました。そして今も「子どもの作品」を通して多くの先生方と子どもの作品と出会い続けたいと考えます。55年前も今も、私たちは「子どもの作品を語る会」を通して、この意味と「おもい」を、確認し続けています。わたしたちも多くの先生方と「子どもの作品を語る」ことを通して、「つながる」「つなげる」ことができたらと考えます。

図工美術教育を通して、子ども達の作品を真ん中に、子どもとの日々の記憶や物語を綴り、共有し合うこと。また、互い姿勢を認め合い、時に議論し合いながら研鑽をつんでいくこと。これからの社会を共に生きる子どもたちと未来を思い描く日々を基盤に、「まなざしを共有し、おもいをつなげる」仲間づくりを、フェイス・トゥー・フェイスで「つなげて」いきたいと考えています。



公開授業

指導案概要



「 子どもの見る世界～もりのおふろ 」

幼・保「つなげる」分科会

授業者 よいこのくに幼稚園 金子 英里 ・ 大津 充紗子



1 子どもたちの生活の視点から

絵本の世界やおもちゃの世界、子どもの見る世界をどのように広げていくかを考えた時、子どもの頭の中で、その人のものがイメージとして実際に動きだしているかを考えます。絵本を見て、作ったものを見て、『どんな味だろう』『おいしい』『いいにおい』そんな姿が、子ども達の中にあるのか、ないのか。もしなかったら、色々な視点視点(季節・におい・音・色などで、伝えたい、感じてほしい世界、育てたい心を表現した環境と、子ども達が今現実にいる世界・生活との共通点を探したいと考えます。

2 学期後半に全体で行っている『造形あそび』は、クラスや学年の枠を超え、全園児でつくって遊ぶ『体験型アート』です。切る・貼る・塗る・折るなど、指先や道具を器用に使います。運ぶ・広げる・積み上げるなど、みんなで協力し、助け合いながら製作します。大きい子の豊かな表現を見て、小さい子はイメージし、想像力・創造力が広がったり、大きい子が小さい子に手を貸してあげることで、思いやりや優しさの気持ちが育っていきます。もちろん、作って遊ぶことが目的です。ホールに歓声が響き、子ども達の心は喜びと充実感でいっぱいです。

2 題材を設定するにあたって

子ども達の生活や遊びをヒントにし、外遊びでは、園庭の草花実を使い色水作りやケーキづくり。お部屋では、ごっこ遊びやままごと遊びなどから、遊びが広がるような環境づくりを心がけています。また、子ども達が持っている『自分で伸ばしていく力』『見つける力』を、最大限引き出せるような環境づくりや関わりを大切にしています。

3 題材のねらい

- おもう：『こうしてみたい』という意欲やイメージがつながる。『おもい』を表現する。
- さぐる：意欲的に探す。考える。工夫する。
- つながる：『おもい』を形にし出来上がりを喜び、お互いの『おもい』を共感し合える。一人ひとりの個性を楽しむ。
- つなげる：出来上がったもので遊ぶ。楽しむ。達成感を感じる。友だちと力を合わせる。気持ちを合わせる。

4 学習の流れ(7時間計画)

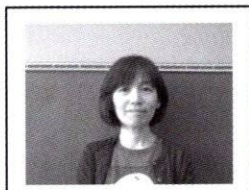
学習段階	学習活動	留意点	評価の観点・方法	
導入	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ (おもう) ・動物園で動物を観察し楽しむ。 ・わらべうた・絵本を楽しむ。 ・気持ちがほぐれ、おもったこと感じたことを伝える。 ・イメージを持つことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作する動物をよく見て観察する。 ・題材に向けて興味・関心もてるよう言葉掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作にイメージをつなげようとしている。 ・わらべうた・絵本を楽しんでいる。
追求・発想・構想・制作など	5時間 (本時7/7)	<ul style="list-style-type: none"> ■ (さぐる) ・考える。気付く。探す。工夫する。 ・各クラス・学年で、意見・感想を出し合う。 ・イメージや想像力を発揮させ、アイデアを出し合う。一人ひとりの思いを形づくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達のことば・『おもい』を出来る限り引き出し、足りないと感じる時は、添えながらイメージ出来るよう伝える。 ・材料からもイメージがつながるよう、素材選び等に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージするものを伝えている。 ・イメージするものを見つけている。 ・『おもい』を形にしている。
相互鑑賞・自己評価など		<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がりを喜び、友だちと見せ合い、楽しむ。達成感を感じる。 ・出来上がったもので、絵本の世界を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々での作品から、全体遊びにつながることを感じ、楽しめるよう言葉掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもうものを表現している。 ・友だちの作品からお互いを感じられ、一緒に楽しんでいる。

5 ふりかえり(評価)

- おもう：『おもい』を伝え『おもい』を聞き、イメージしようとしている。
- さぐる：考え、気付く。工夫し楽しめたか。『おもい』を形にしている。
- つながる：個々で考え作りあげられたものへの気持ちを、友だちと共有し、合わせ、つなげている。
- つなげる：出来上がりを喜び、達成感を感じる。つなげた思いから、友だちの存在に気付き、刺激され互いにか認め合いながら、作り上げる楽しさを味わい今後の園生活への関わりにもつなげている。

「た・ど・し・の・わ・た・し」

小学校 低学年 分科会 授業者 深川市立多度志学校 (村山 尚子)



1 子どもたちの生活の視点から

深川市立多度志小学校は、空知で一番北にある小学校です。今年度の全校児童は10名。完全複式で1学年の人数が少なく、在籍児童1名の学年が2つあります。保育園の時から一緒に過ごしている子どもたちがほとんどですが、学年が異なるため、普段の学習中では様々なアイデアに触れる機会をつくるのが難しいのが現状です。

2 題材を設定するにあたって

多度志小学校では、2年前から全校児童で「卒業式のステージ装飾」づくりをしています。

昨年は4時間、全校で図工をする時間を設けました。手順は、以下の通りです。

- ① 卒業する6年生が、「自分が卒業する式のステージを、どんな感じにしたいか」アイデアを考える。(2月)
「2017年度の6年生のイメージ空は青くて、そこに鳥が飛んでいる。多度志の空で、鳥は9羽(当時の全校児童数)」
- ② そのアイデアが形になるように、全校児童でつくる。(2月)
「材料・ウッドラック ～今の自分が鳥になって 多度志の空を飛ぶのを 想像して かたちにしよう～」
- ③ できたものを、高学年が相談しあってレイアウトする。

学年の違う子どもたちが一緒に机を囲んでつくる活動をする中で、6年生の細かい作業を2年生が見入ったり、1年生の大胆なデザインに、5年生が驚いたり…時々、自分の作業で出たウッドブロックの破片を交換し合ったり…。

多度志小学校は同学年の人数が少ないため、普段の学習の中で「多様な考えに触れること」が難しい場面がありますが、全校で合同図工を行うことで、それが実現できました。

今年度は6年生がいません。「卒業式のステージ装飾」とはなりません、「今の自分を表現する」「多様な考えに触れる」「仲間と一つのものを作り上げる」場として、この題材を設定します。

3 題材のねらい(題材観・素材観)

- おもう：今年は、どんな多度志の どんな自分を 全校で表したいか考える。
- さぐる：材料を触りながら、お互いの作業を見合いながら、自分の表したいものをつくる。
- つながる：どう並べたら、「た・ど・し・の・わ・た・し」表せるか考える。
- つなげる：出来上がったものを、どこに飾ったらよいかを考える。

4 学習の流れ(6時間計画)

学習段階	学習活動	留意点	評価の観点
導入	1時間 ■ (おもう) ・昨年度のステージ装飾を全校で鑑賞する。 ・今年は、どんな多度志の どんな自分を表したいか、考える。		・どんな多度志の、どんな自分を表したいか、考えることができたか。
追求・発想・構想・制作など	2時間 ■ (さぐる) ・ウッドラックを用いて形を決める。色を決める。 ・形を切り取って、色を塗る。	・カッターを用いるが、切るの難しい部分は教師が切る等、児童の実態に合わせる。 ・塗る色を作る際は、白を混ぜてトーン(色調)を合わせることを伝える。	・ウッドラックを用いて形を決めること、色を決めることができたか。 ・形を切り取ったり、色を塗ることができたか。
	はじめる前の1時間(本時は2時間) ■ (つながる) ・前時までにつくったものを、自分で考えながら、さらにすてきにする。 ・出来上がったものを、どこにどう並べたら、「た・ど・し・の・わ・た・し」表せるか考える。	・カッターを用いるが、切るの難しい部分は教師が切る等、児童の実態に合わせる。 ・仲間の作っている様子を見る時間を、設定する。	・前時までにつくったものを、自分で考えながら、さらにすてきにすることができたか。 ・出来上がったものを、どこにどう並べたら、「た・ど・し・の・わ・た・し」表せるか考えることができたか。
相互鑑賞・自己評価など	1時間 ■ (つなげる) ・土台となるスタイロフォームの板に並べてみて、全体で見合い気づいたことを発表し合う。 ・飾るの可能な場所のうち、どこにかざったらよいか考えて決める。	・他に必要なパーツがあれば「今まで作ったもの」の中から使うもの考える。新たに何かが必要な場合は、だれかそれをつくるか相談する。 ・飾るの可能な場所をいくつか決めておく。	・土台となるスタイロフォームの板に並べてみた時に、気づいたことを発表し合うことができたか。

公開授業 小学校 「さぐる」

岩見沢市立 中央小学校 第1学年

「 コロコロ ペったん 」

小学校「さぐる」分科会

授業者 岩見沢市立中央小学校 大野 寛文



1 子どもたちの生活の視点から

岩見沢市立中央小学校は、岩見沢市の市街地、名前の通り中央に位置している学校である。全校児童325名、本学級は30名の学級である。今年度入学し、小学生となったばかりであるが、小学校生活にも慣れ、学習に精一杯取り組んでいる。また、休み時間にはいつもグラウンド・体育館を元気一杯に走り回り遊んでいる。

図画工作に対しては「次は何をするのか」という期待を大きくもっている児童が多い。自分の考えや思いを表現する活動にも大変意欲的に参加しており、図画工作が好きなクラスである。また、友達の作品を見て、「いいな」「すごいな」など、それぞれの作品の良さを認める姿も見られ、図画工作を通して児童同士の結びつきに変化が出ていることを感じている。

2 題材を設定するにあたって

本学級の児童は図画工作が好きである。また、友達の作品を見て、おたがいの作品の良さを感じる時間はこれまでの授業の中で設定してきた。しかし、周りの友達の作品を活かして更に作品づくりを進めたり、友達と協力して大きな作品を作ったりすることはしていない。

今回は岩見沢市立光陵中学校の体育館を使用できるため、1年2組全30名で大きな紙にそれぞれがローラーでひいた線と自分で作成をしたスタンプを用いながら一つの作品を作成させることを楽しんでもらいたいというねらいがある。また、協力しながら一つの作品をつくりだすということや体全体を使って紙を広く使いながら写す活動を楽しむということ、友達の作ったローラーの線やスタンプで写し出された形や色の面白さから、新たにイメージを膨らませて作品を広げていくことの面白さに気づかせたい。本単元を通して、仲間と一緒に楽しく作品づくりに取り組む素地を養いたいと考え、この題材を設定する。

3 題材のねらい

- おもう：大きな紙に思いきってどんなものを描くか考える。
- さぐる：様々な形のローラーやスタンプを作り組み合わせる。
- つながる：友達のスタンプやローラーで写し出された形を見て良さに気づく。
- つなげる：友達のつけた形と組み合わせる作品を広げる。

4 学習の流れ（5時間計画）

学習段階	学 習 活 動	留 意 点	評価の観点・方法
導入 2時間	<ul style="list-style-type: none"> ■さぐる スタンプやローラーで作成された作品を見て、自分ならどんなスタンプを製作するか考える。 身近にある材料を使って形を写すことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものに絵の具をつけて製作した作品を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写された形をみて、自分がどんなものを作りたいか考えている。
追求・発想 2時間	<ul style="list-style-type: none"> ■おもう ■つながら 身近にあるものを使って自分のスタンプやローラー作りをする。 ・形を写しながら、表してみたいことを考える。→自分の気持ちなどに合わせて色を組み合わせたりしながら活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に家から材料を持ってきても良いことを伝える。 ・スタンプ作りには使える部品を用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものを使って写すことに興味をもっている。 ・材料を組み合わせ、試しながらスタンプやローラー作りを進めている。
制作・鑑賞 1時間 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ■さぐる ■つなげる これまでに学習したことや製作したものを使いながら、全員で一つの形を作り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 光陵での作品作成となるため、保護者へ協力を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのスタンプやローラーの形をみながら自分のものを重ねたり、別の形を生み出したりしている。

公開授業 小学校「つながる」

岩見沢市立中央小学校 第3学年

「 美術館に行こう！ 」

小学校「つながる」分科会

授業者 岩見沢市立中央小学校 佐々木 紗



1 子どもたちの生活の視点から

本校は様々な教育活動において「本物に触れる」ことを重視しているが、図工における「本物」とはどう捉えればよいか。単純に「美術館に行けば『本物』の芸術作品に触れた」ことになるとは思わない。しかし、子どもにとっても、保護者にとっても何か敷居が高いと思われがちで、なかなか行くことの少ない美術館に行き、作品を鑑賞する経験を積む事は、子どもにとって貴重な学習の機会になるはずである。

2 題材を設定するにあたって

本市には決して大きくはないが美術館がある。校区外とは言え、本校からさほど遠くなく、児童は入場料も掛からない「行き易い」環境である。美術館が積極的に観賞学習を受け入れていることもあり、本児童たちも1年生時に一度訪問している。今回は美術館の鑑賞マナーの指導や小グループによる観賞ゲームを楽しんだ。

アートの鑑賞は、決して難しいものではないが懐の深いものであると考える。鑑賞する者が、自分自身の「好き」「嫌い」など、自身の感情の動きを自覚する貴重な場である。

今回2年ぶりに訪問するにあたり、子どもたちが前回訪問時とどのような違いを自ら発見するか、また、その為のプログラムをどうすべきかを館長とともに考えた。子どもたちが作品鑑賞を通して自分のおもいに気付き、表現する事で自分の考えに自信をもつとともに、友達との違いを互いに認めあえる学習の場としたい。

3 題材のねらい

- おもう：作品鑑賞を通じて、「自分の感情」に気付く
- さぐる：自分の感情を、どのような言葉で表現するか考える
- つながる：友だちと交流することを通して、互いの感情の違いを認めあう
- つなげる：アート鑑賞の面白さに気付くとともに、家族や友だちとまた美術館に来たいと思う

4 学習の流れ（2時間計画）

学習段階	学 習 活 動	留 意 点	評価の観点	
導入	1時間 <ul style="list-style-type: none"> ■ さぐる <ul style="list-style-type: none"> ・アートカードを用いて鑑賞を行い、好きな作品を選ぶ。 ・アートカードを用いた鑑賞ゲームを行う。 ・カードに掲載されている作品の本物が、美術館にある事を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・アートカードで作品を観賞し、どの作品が好きかを選ぶことができるようする。 ・ゲームを通じて、自由な連想や発想を引き出すよう心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの絵柄から、思い思いの発想を広げている。 	
鑑賞	1時間 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ■ おもう <ul style="list-style-type: none"> ・美術館に行き、鑑賞を通して自身の感情に気付く ■ さぐる <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉に変えて表現する ■ つながる <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと交流し、それぞれの違いに気付く ■ つなげる <ul style="list-style-type: none"> ・アート鑑賞や美術館という場所を自分の生活に近づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情は、人と違ってよいことを確認する。 ・友だちの考えを認め合えるような雰囲気作りに留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの感情の違いを認め合っている。
自己評価				

「見えるかな～パッケージのデザイン～」



1 子どもたちの生活の視点から

とても広い夕張市全域を校区とする本校は、雄大な山々と豊かな水源など恵まれた自然に囲まれ、四季折々に彩り豊かな表情が見られます。夕張メロンを代表とする農産業と同じくらい財政再建団体・高齢化地域としても有名です。これらの教育への影響も踏まえながら、元気な生徒たちの笑顔を大切に、将来への夢や目標に向かって歩み続けることができるよう、美術ではいつも生徒たちと「やればできるよ」の時間をともに積み上げていきたいと考えています。

2 題材を設定するにあたって

生徒たちが自ら生き生きと活動していくには、学びと表現の活動が楽しくなければならぬだろうと考えています。しかし「楽しい」の意味が大切なのだと、その在り方にはいつも考え自戒します。生徒たちが自主的・主体的に「楽しく」思考を深めながら、学習し表現できるよう設定した今回の題材が、目的であるパッケージのデザインをゴールに、形や色、美しさや形の意味を再発見し、彼らにとって楽しみながら考えることができる機会になればと思います。

3 題材のねらい

- おもう：デザインのよさや美しさなどに関心を持ち、意図や表現の工夫を感じて、それらを制作に生かそうとする。
- さぐる：色や形を工夫しながら、目的に基づいた構想を練ることができる。また、適切な形や色彩を探り選択する。
- つながる：相互鑑賞及び作品展示を通して、デザインのよさや動きと、互いの思いや意図を理解する。
- つなげる：パッケージとしての可能性を膨らませてみる。生活の中にあるデザインについて見直してみる。

4 学習の流れ（7時間計画）

学習段階	学 習 活 動	留 意 点	評価の観点・方法
導入 1時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ おもう <ul style="list-style-type: none"> ・題材についての理解 ・制作に向けてのイメージづくり ・生活の中にあるパッケージデザインから、デザインの工夫や面白さ、形や色の動きについて気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品例の映像や資料を提示しながら、イメージを膨らませられるようにする ・形や色の工夫、目的に応じた特徴などについての気づきを増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞時の様子 ・ワークシート
構想・制作 (本時3/5)	<ul style="list-style-type: none"> ■ おもう・さぐる <ul style="list-style-type: none"> ・資料を選択/活用しながら構成する。 ・自分のイメージに合った形をさぐり、試しながら選択する。 ・アイデアスケッチをもとに、試作から制作へ（構成・彩色） 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の準備・発想の手がかり ・目的に合った形と色のもつ強さ ・意外性からくる面白さ ・イメージや発想を具体的な形で表現することが困難な場合を想定し、模型と展開図の例を準備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な活動 ・ワークシート ・アイデアスケッチ ・試作（未完も含めて） ・作品
鑑賞 1時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ つながる・つなげる <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価とまとめから、制作意図について振り返り発表への準備をする ・相互鑑賞から仲間の工夫点に学ぶ ・気づきから学びへ 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の意図が伝わる発表とする ・仲間の作品から気づき、学ぶことができる機会にする ・生活の中にあるパッケージデザインを鑑賞し、振り返りをさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子 ・鑑賞時の様子 ・ワークシート

5 ふりかえり（評価）

- おもう：デザインのよさや美しさなどに関心を持ち、意図や表現の工夫をしながら意欲的に制作しようとしている。
- さぐる：色や形を工夫しながら目的に基づいた構想を練り、適切な形や色彩を選択して構成している。
- つながる：相互鑑賞及び作品展示を通して、パッケージデザインの意図や工夫について考え理解している。
- つなげる：生活の中にあるデザインについて、その目的に応じた工夫や面白さについて再確認している。

「心の窓 ～未来のわたしに向けてのエール～」



1 子どもたちの生活の視点から

「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか (P・ゴーギャン)」15歳。さまざまな日常生活に「最後」という文字が付き始め、進路選択が進む。楽しいことも悩ましいこともたくさんの情報が心に渦巻く。10年後、20年後の自分はどうしてるのかな。新たな一歩。未来への不安と期待が心に広がる。

2 題材を設定するにあたって

中学校最後の作品を思いきり自分を表現したものにしたい。そして現在の自分につくるだけではなく未来のどうしているかわからないずっと先の「わたし」へ贈り物のような作品にしてほしい。そんな願いからこの題材は生まれました。アルバムをめくって「こんなことあったな」とちょっと元気がでてきたり、懐かしい音楽を聴いて気持ちが高まったり、朝、窓を開けて勇気ができるように私たちには心にくつも窓を持っています。子どもたちにとって自分の作品が(みんなで作った作品が)背中を押してくれる一歩になればと思います。今はどんより曇り空でも窓を開いたら新しい風。現在のわたしと未来のわたしをつなぐ作品にしていきたいです。

3 題材のねらい

- おもう：現在の私と未来の私をつなぐ。未来の自分が元気になるようなテーマ性のある作品を残す。
- さぐる：形、色、開き方、心象表現を考え作品の見せ方をさぐる。
- つながる：制作過程や作品発表を通じて、自分のことを語り、相手を受け止める。
- つなげる：未来のわたしに作品を贈る。

4 学習の流れ(8時間計画)

学習段階	学習活動	留意点	評価の観点・方法
導入 (本時1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ■ おもう ・単元の内容を理解する ・現在や未来のわたしを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去作品や映像から完成像を掴む手立てをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の様子(観察) ・記入内容(ワークシート)
追求 4時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ おもう ■ さぐる ・テーマからイメージを広げアイデアスケッチをする ・どのような形や開き方が合っているのか考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己目標や自己テーマから自己決定を促す。 ・グループ活動ができる机脚配置や自由に交流できる時間を設定する。 ・イメージを広げる資料の準備し、発想や具体化する際の手助けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子(観察) ・自己目標シートや制作表 ・アイデアスケッチ
追求 3時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ さぐる ■ つながる ■ つなげる ・外側と内側の絵の制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動ができる机脚配置や自由に交流できる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子(観察) ・作品 ・鑑賞の様子(観察) ・制作表

5 ふりかえり(評価)

- おもう：自分でテーマを設定し、意欲的にイメージを具現化しようとする。
- さぐる：様々な表現方法を考え、選択し、効果的に使用している。
- つながる：友人の作品からその人らしさを感じたり考えたりしている。
- つなげる：未来の自分が元気になるような作品づくりをしている。

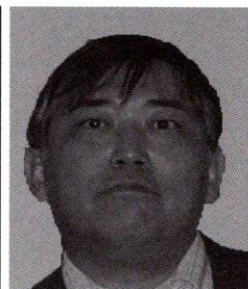
公開授業 高等学校「つなげる」

北海道岩見沢緑陵高等学校 2学年選択「総合芸術」

「見える音，聞こえる形，色彩」

高校「つなげる」分科会

授業者 北海道岩見沢緑陵高等学校 棚田 将史



1 子どもたちの生活の視点から

豊かな世の中となり，子どもたちを取り巻く美術の世界も大きく変わり始めている。一つはコンピュータの出現である。タブレットに絵を描き，スマートフォンで写真や動画を撮影，編集まで行うことができる。二つ目に情報の得やすさがある。インターネットが普及し，世界の様々な文化に触れ，最先端の芸術作品を知ることが容易となっている。いわゆるデジタル社会の展開である。

これによる利便さは否定されるものではないが，美術においては一番重要と思える純粋な感動が半減され，かつ，機器により補正された作品，仮想空間との隔たりに気づかず，子どもたちは満足してしまう可能性が高い。

2 題材を設定するにあたって

視覚からの情報量は8割を超えると言われるのに対し，聴覚からの情報量は約1割と言われている。しかし，その情報である音は，記憶にある光景，印象的な情景を呼び起こさせ，人は想像を膨らませる。

今回は目に見えない音に注目し，見えないものが対象であるからこそ，個々に感性と想像力を働かせ，自由な発想で無形である音を有形にすることが目的である。また，イメージを具現化していく過程で，模索と追求を繰り返すことにより，主題を明確にすることができる。この課題では技能を問われる場面は少なく，形と色彩による造形を純粋に楽しむことができ，形や色彩の持つ良さや美しさを再確認すること，作品を相互鑑賞することで表現の多様性に触れ，美術作品に対する客観性，他者の意図をくみ取るコミュニケーション能力，美術への関心・意欲を高める機会としたい。

3 題材のねらい

- おもう : 形と色彩の持つ特徴を考え，その良さや美しさに気づく。
- さぐる : 具現化する際，主題に対する適切な形，色彩を探る。
- つながる : 相互鑑賞及び作品発表を通じ，その意図を理解しながら，他者とつながる。
- つなげる : 制作や他者との意見交流，自作品への客観的評価により，将来につなげる価値観を形成していく。

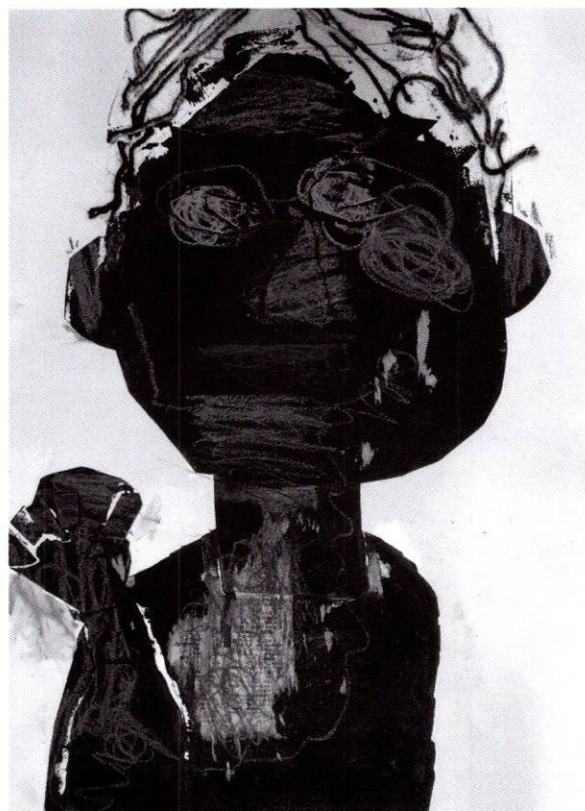
4 学習の流れ（6時間計画）

学習段階	学 習 活 動	留 意 点	評価の観点・方法
導入 1時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ おもう <ul style="list-style-type: none"> ・題材について理解し，制作時のイメージを考える ・形の良さ，美しさに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品例により，イメージしやすくする。 ・線，形の特徴に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞時の様子（観察） ・意欲的な活動（作品）
展開 (本時4時間/4)	<ul style="list-style-type: none"> ■ さぐる <ul style="list-style-type: none"> ・一色により，形のみでの制作 ・色彩について学ぶ ・形，色彩による制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・形の持つ良さ，美しさを感じさせ，主題に合った形を選択させる ・色彩の特徴に気づかせる。 ・形，色彩の持つ良さ，美しさを感じさせ，主題に合った形，色彩を選択させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な活動（作品） ・鑑賞時の様子（観察） ・意欲的な活動（作品）
まとめ 1時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ つながる ■ つなげる <ul style="list-style-type: none"> ・作品，制作意図の発表 ・他者の作品，発表の鑑賞 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図が伝わる発表内容をさせる。 ・他者との相違点に気づかせる。 ・作品を客観的に評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時の様子（観察） ・鑑賞時の様子（観察） ・ワークシート

5 振り返り（評価）

- おもう : 形と色彩に関心を持ち，その良さや美しさを認識したか。
- さぐる : 主題に対し，確かな意図のもと，効果的な形と色彩，そして組み合わせを追求したか。
- つながる : 作者の表現意図，工夫を感じ取ることで，作品を読み解くことができたか。
- つなげる : 自作品と他作品との相違点等をもとに，価値観を形成することができたか。

提言集



「日々の描画活動から木版画へ」

幼・保「つなげる」分科会

社会福祉法人多度志保育園 主任保育士 大谷 紋 歌



1 子どもたちの生活の視点から

園児の描画活動は、まだ文字を持たない子どもたちにとって大切な自己の存在を表現する方法です。

当園では、常に保育生活に紙と画板とペンが用意され、いつでも自由に描ける環境を保障しています。1歳頃からペンを手にし、「点々」から「弧線」、徐々に「グルグル丸」や「塗りつぶし」へと変化する様子は、確かな発達のおかげであり、今この子にどんな援助が必要なのか、保育者に課題を示唆してくれる大切なメッセージでもあります。

描画活動ではもうひとつ、お話しを大切にしています。まだ小さい子どもは、完成を想像して描くより描いたものをあとから意味づけすることが多く見られます。保育者は子どもの隣に同じ目線で座り、共通体験の語り手、聞き手になることで、子どもたちは「これは〇〇で、今〇〇してるの」と、自分の絵に意味づけをしていきます。更に成長するにつれて、テーマのある絵になり、お話もその時の情景をまとめて話せるようになります。

豊かな絵の表現には、子ども自身が誰かに伝えたくなくなる心はずむ保育生活が基盤にあります。その日その日を「遊びきる」ことが豊かな描画活動に繋がります。そして、思いを受け止める聞き手の存在や共感する友だちとの関係が、その子の社会性を育てていきます。

2 題材を設定するにあたって

木版画づくりは、年長児の卒園制作に位置付けられていますが、版画自体は0歳児から行っています。0歳児は、スチレンボードにくぎのようなもので絵を描いていきます。1歳児からの紙版画は、ハサミの一回切りを行い、それを組み合わせる一つの作品にしていきます。3歳児からは、何を作りたいか保育者と話しながら進めていきます。ハサミの使い方、糊の付け方を伝えながら、作品を作っていきます。4歳児になると、紙版画でも胴体や手足が付き、5歳児になると人物のパーツが細くなったり、背景も細かく出てくるようになります。原画の紙パーツの重なりを工夫する過程から、絵の遠近感を自分自身で理解する子どもも出てきます。

3 題材のねらい

版画のテーマ決めは、一人一人が意見を出しあい、決まらないときは実際に仮のテーマで墨絵を描いてみたりもします。最終的に一つのテーマが決まると、記憶を呼び覚まし、時には植物や動物の図鑑を見て、子どもたちの研究が始まります。

- おもう これまでの園生活を振り返って、版画に残したいテーマをみんなで決める。
- さぐる 人物は、大きな鏡を使って自画像や目、口、鼻などを観察して墨絵にいくつも描いていきます。
- つながる よく観察することで、アニメの模倣を離れて、自分の手で人物や物を描く力がついてきます。
- つなげる 彫りの作業は、描いた下絵の思いを再生したり、新たに思いがふくらんでいく過程です。単純作業にならないよう、休憩を入れながら「やりたい」気持ちを保育者がサポートしていきます。
版画が完成した時、ある子は「あーこれでやっと1年生になれる」とつぶやいたそうです。

4 学習の流れ（12月中旬～3月初旬）

学習段階		学 習 活 動	留 意 点
導入	12月中旬 ～1月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の描画活動 ・紙版画制作の経験 ・躊躇せず絵で表現できる力 ・筆を使った墨絵 ・自画像を彫ってみよう 	途中入園の子のフォローアップ 自画像彫りを通して、下絵づくり、実際の彫り方の習得。
追求・発 想・構想・ 制作等	1月中旬 ～3月初旬	<ol style="list-style-type: none"> ①筆で人物などを描いていく。 ②ハサミで切り取り版木に置く。 ③重なりや細かな修正を加えて下絵を構成していく。 ④木や葉っぱなど、どんどん足す。 ⑤下絵完成。トレーズ紙を重ねて、コンテで下絵をなぞる。ペーパーを裏返しにして板に重ね、パレンで写す。 ⑥下絵を墨で再度なぞる。 ⑦彫刻刀で彫っていく。 ⑧インクを載せて刷り上げる。 	人物は等身大を意識して描く。 彫刻刀は自己管理させて、集中が切れそうなら休ませる。
相互鑑賞・ 自己評価	3月初旬～	最後に題名を改めてみんなで決める。 外部（市内・市外）の展示会への出展。	年中、年少組も鑑賞でおでかけ。保護者にも家庭で話題にしてもらう。

5 制作の様子から

園のエントランスに歴代作品が飾られる卒園製作の木版画は、子どもたちの憧れの存在です。「ほし組になったら、ぼくたち・わたしたちも出来るんだ…！」という思いを抱きながら、多度志の子どもたちは大きくなっていきます。

本作品のテーマは「やまのぼり」。12月から墨絵を始め、時には意欲満々に、時には休憩しながらも、1日2時間前後を制作に費やしていきます。

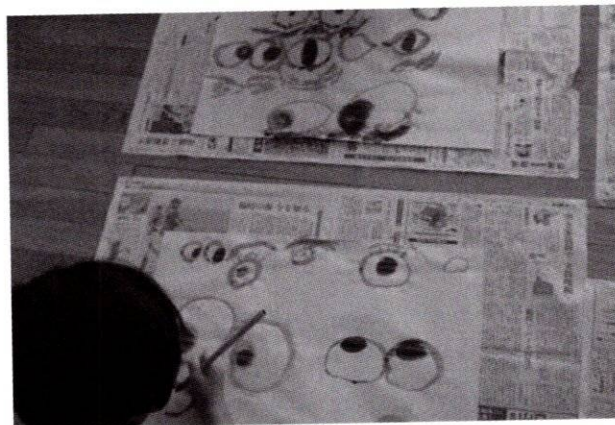
◆R子の葛藤

この日はちょっとした喧嘩があり、そのことを引きずってR子は「版画やりたくない」とうつぶいてしまいます。理由を聞いても「今日はやりたくないの」とだけ答え、喧嘩の気持ちの切り替えがうまく出来ずにいる様子です。

保育者は子どもの「やりたい」を応援するのと同じように「やりたくない」の裏にある思いを大切にしていきます。「じゃあ、今日は休みにしよう。でもやりたくなったら一緒にやろうね」と声をかけ、ほかの子にもR子の気持ちを代弁して理解して貰いました。次第に落ち着き、ほかの子からも「一緒にやろうよ」とさりげなく声かけされると「やっぱりわたしもやるわ」と、気持ちを切り替えて合流できました。

私たちは子どもを信じて「待つ」ことを保育の大切な指針としています。保育者は子どもたちのよき理解者、応援者でなければなりません。ただ「待つ」のではなく「大丈夫だよ」という安心の思いを伝えることで、子ども自身の中でゆっくりと葛藤を乗り越え、気持ちを作っていくのでしょ。

描画活動でも、つい指示してしまいかちな保育者が「待つ」ことの大切さを子ども達から教えられた出来事でした。



6 題材をふりかえて

版画の原版を作るのは、子どもたちにとっても根気のいる大変な作業ですが、周りのお友達と一緒に作ることで、影響されたり模倣しながら表現力が育っていきます。

出来上がった時には、どの子も達成感に満たされ、自らインクを載せて刷り上がりを確認すると、更に満足げな表情を見せてくれます。

多度志保育園の木版画制作は、就学前の年齢の子どもたちにとって、ややハードルの高い部分もあるかもしれませんが、保育園生活でつちかわれた子どもたちの経験の積み重ねが、木版画制作につながっています。

彫刻刀の扱いも、普通の保育で手先を使い、道具の意味を理解している子ども達は、慎重かつ大胆に彫っていく様子が、作品からもうかがえます。

何よりも、畳3枚分のキャンバスに描き、彫り、刷り上げることで、自己を表現する感性を備えた子どもたちを、自信をもって小学校に送りだせることが、保育に携わる保育者のよろこびでもあります。

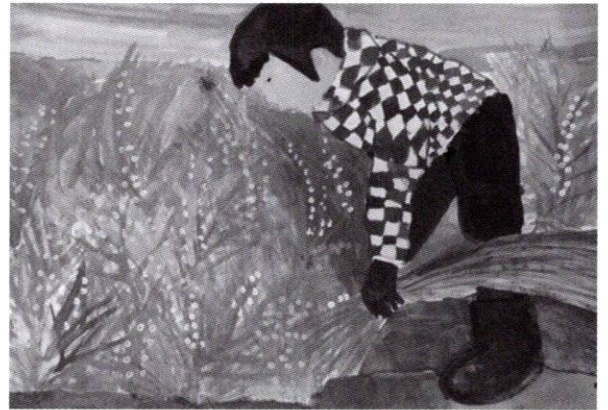
	4 ～ 8 時間 目	<p>< 着彩 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲を触った感じから塗り方を確認する。 かたい・まっすぐ→塗り方は?? ・ベースの色(黄土色) + どんな色を混ぜたらいいかを考える。 土の色→茶色だけではない! ・稲の重なりを表現するには? ・稲作の楽しさや自然の美しさを表現するための塗り方を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・触ってみたり自分の目で見たりした感覚や色を思い出させる。 ・色の濃さや筆の使い方に注目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の様子や作業の様子がより伝わる表現方法を試行錯誤している。 ・伝えたい思いが伝わるような表現方法を考えている。
相互鑑賞・自己評価など	随時	<p>< よさの共有 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよい表現を随時鑑賞し、よさを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の中で工夫した表現を随時紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現のよさを感じたり、自分の作品に生かしたりすることができる。

5 制作の様子から

・初めはどんな色を塗ったらいいかわからなかった子どもたちも、ベースの色をヒントにして土の色を混ぜながら作業を進めていると「こんな色じゃないんだよな。」と、試行錯誤しながら、こだわって塗る姿が見られました。

・腕や足の重なりにはかなり苦戦していました。重なりに違和感があってもまずは描いてみてから線を消してつながりを確認することで理解して描くことができました。

・稲の色も人それぞれ。黄色を多く使った子は楽しい雰囲気か伝わり、落ち着いた色を選んだ子は刈り取った後の静けさが伝わってきます。友達の作品を自由に見ながら制作することで、「いい色だね」「〇〇さんのような土の色にしたい」というような会話が自然と出てきていました。



6 題材をふりかえって

市の事業として行われた稲作体験。農業をより身近に、そしてそのよさを広めたいという思いで企画された農村画のコンテストに応募するという形で制作に取りかかりました。

ただ、コンテストに応募することが目的ではなく、自分たちが体験した米作りの作業の楽しさや大変さを伝えることに目的を設定しました。米作りの作業の初めは土の中に足を踏み入れたとたん「気持ち悪い」そして、田んぼの虫に出会うと悲鳴を上げていた子どもたちが作業を進めていくにつれて、自然と熱中し「楽しい。もっとやりたい!」と変容していったことに価値があると感じたからです。

作業をしている体の動きを表現することに苦戦しましたが、稲を運ぶ正面から見た画面構成よりも、稲を刈っている動きや、農家の方と一緒に脱穀機に稲を入れた所を描きたいと、自分なりの思いをもって画面構成を考える子もいました。稲の色や土の色を一から考えさせるとなかなか難しいという実態から、ベースの色を提示することにしましたが、その色をもとに、自分が見た色に近づけるために試行錯誤しながら混色し、納得する色ができたら塗るといった子が多かったように感じます。土の色も稲の色も人それぞれで、自分たちが感じた色や思いを中心に制作を進めていきました。完成した作品を見ると、不思議とその子の稲刈りの時の取組の様子や見方が伝わってきました(担任だから感じること?)。

学年で図工の時間を揃え、お互いの教室の出入りを自由にして、友達の作品を見に行くことができるような体制で進めているので、子どもたちは友達の表現のよさを素直に受け止め、自分の作品に生かす姿が見られています。表現方法に戸惑っている子も友達の表現をヒントに手が動き始めます(友達の表現に勝るものなし!)。改めて鑑賞の時間を設定しませんが、制作の中で友達のよい表現を「見たい! 知りたい!」と、積極的に友達の所に寄っていく子どもたちですから、その中でやりとりが今回の制作の中でも大切な時間となりました。

提言 小学校「つながる」

教育大学附属釧路小学校 第6学年

「 ドリームプラン～きらめく釧路のまち～ 」

小学校「つながる」分科会

教育大学附属釧路小学校 登藤 珠実



1 子どもたちの生活の視点から

本校に通う児童の約8割が公共バスを利用し、毎日釧路のまちのを眺めながら通学している。6学年の児童達はこれまでに「まちづくり」に関する学習として、総合的な学習の時間や社会科を中心に「環境問題」「社会問題」などについて考えてきた。それぞれに「釧路のまちがこうだったらすてきな。」「こんな風になってほしいな」などの思いや願いがある。

本題材を通して、自分たちの住む「釧路」のよさを再確認すると共に、身近な社会や環境の課題に主体的に関り、楽しく幸せに過ごしたいという願いを実現する方法を創造的に考え、行動しようとするこどもの姿を目指したい。

2 題材を設定するにあたって

本題材では、自分達が暮らしているまち「釧路」の様々な場所を、自分の願いや思いをもとに「ドリームプラン～きらめく釧路のまち～」をテーマに、模型などにして表していく。

学習の導入として、釧路のまちの良さや魅力を再発見するため、釧路市立美術館の協力を得て、釧路をモチーフとした所蔵作品をお借りし、学校で作品鑑賞する時間を設けた。計画を立てる前に作品から、作者が作品に込めた思いを感じ取り、釧路の魅力や良さを再度確認する必要があると考え、学習の入り口として設定した。また、計画から表現・展示まで班ごとの活動とし、他者と対話し協働しながら様々な考え方や工夫、思いなどを交流することで、見方や考え方を広げることができると考えた。

小学校高学年になると、自分の思いやイメージを表すことだけでなく、自分の考えや見方、そして表したものはどのように伝わっているか、どのように伝えることができるか等、客観的な視野も広がってくる。作品を通して自分達の思いやイメージを他者に伝えるために必要なことを考え、展示方法なども工夫することとした。作品は夏季休業中に釧路市生涯学習センターまなぼとの市民展示スペースに展示する予定となっている。展示後は、作品を見てくれた人が自分たちの作品をどのように感じたか、感想や意見をもとに児童とフィードバックしていく予定である。

3 題材のねらい（題材観・素材観）

■おもう

楽しさや幸せといった願いを込めた「まちづくり」の計画を表す活動に取り組む。

- ・楽しく幸せに過ごしたいという願いを表現する方法を創造的に考える。

■さぐる

表したい思いやイメージをもとに、形や色、材料の扱い方や表し方を工夫しながら表す。

- ・表したい思いやイメージに作品を近づけるために試行を繰り返しながら表す。

■つながる

自他の作品のよさや美しさを楽しむと共に、表現の意図や特徴を捉える。

- ・作品に込めた様々な思いを受け止めながら、自分の考えや見方を広げる。

■つなげる

作品展示を通して自分の思いや願いを他者に伝えるための工夫をする。

- ・他者に自分の思いや願いがより伝わるような展示の方法を考える。

4 学習の流れ（6時間計画）

学習段階	学習活動	留意点	評価の観点
(例) 導入 1時間	釧路をモチーフとした作品を鑑賞することによって、色や形、作品に込められた作者の思いなどから釧路の良さや魅力について話し合い交流する。	• これまでの釧路の「まちづくり」に関する学習を想起しながら、釧路の住む様々な人の「願い」や「思い」についても考えられるようにする。	【関】 作品を楽しく鑑賞しながら、釧路の良さや魅力について考えている。 【鑑】 作品からよさや美しさ、作者の作品に込めた思いなどを感じ取っている。
追求・発想・構想・制作等 5時間	班ごとに「ドリームプラン～きらめく釧路のまち～」をテーマに「環境問題」「社会問題」なども考えながら計画を立て、模型などで自分たちの思いやイメージを表現していく。	• 校外で展示することを伝え、他者に思いやイメージを伝える方法についても考えさせる。	【想】 自分たちの思いやイメージに合った色や形、表現方法などを考えている。 【技】 表したい思いやイメージに合わせて、ものの形や色、材料の扱い方や表し方を工夫している。
相互鑑賞・自己評価など 1時間	自他の作品を楽しんで鑑賞すると共に、作品に込められた思いや意図、作品の特徴なども味わう。 また、校外展示でいただいた感想や意見をもとに、自他の作品を改めて見直す。	• 作品について市立美術館の学芸員さんに御協力いただき、具体的な感想をいただく。自己の作品を客観的に見直し、次の学習に生かしていけるようにする。	【鑑】 自他の作品の良さや面白さを楽しむと共に、作品に込められた思いなども味わおうとしている。

5 制作の様子から

- 作品鑑賞の前に、「釧路」についてのイメージを「良いところ」「悪いところ」に分け、交流した。これまでの学習から釧路についての課題については様々な視点から考えることができたが、釧路の良さや魅力について答えられる児童が少なかったことが分かった。作品を通して、釧路の良さや魅力を感じ取る鑑賞後、交流の中から出てきた釧路の魅力については、「夕日、海、湿原がきれい」「食べ物美味しい」「湿原など自然がたくさんある」「色々な歴史がある」「人が優しい」などであった。
- 完成後は作品を校外に展示することを伝えた為、計画から制作展示まで「見る人にどう伝えるか」を意識して活動していた。自分達の思いやイメージを伝えるために作品だけでなく、キャプション等にも工夫が見られた。
- 作品展示は保護者も児童も見に行くことができる夏季休業中に設定したため、最後の鑑賞学習は夏休み後に実施する予定である。

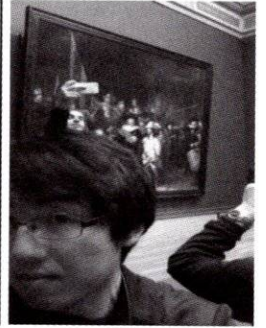


6 題材をふりかえて

題材をふりかえり、「協働」に大切なものは「明るい夢や目標、未来」を共有することだと感じました。また、それらを伝え合うときに必要な力が「イメージを共有すること」だと思います。本題材の学習において、子供達は「イメージを明確にする」「人に伝える」「共有する」「表現する」の作業を繰り返していました。これら一連の作業に必要な資質能力は、これからの時代を生きていく子供たちに必要不可欠な力であり、それらを育むのが図工・美術科教育に課された使命であると考えます。

また、価値ある作品には、造形的な価値の他に、作者の思いや願い、そして作者の目を通して、作品の題材となったモチーフが持つ魅力が込められていると私は考えます。言うまでもなく、本物の作品をじっくりと鑑賞することは子供にとって一生の財産となる貴重な学びです。そのような子供達の貴重な時間を生み出すことができたのも、所蔵作品を鑑賞教材として貸してくださった、釧路市立美術館様の温かい御支援・御協力によるものです。本実践を通し、子供の学びや成長に協力して下さる地域社会の方々の温かさも、地域が持つ魅力や良さのひとつであると感じました。

「 木の声を聴きながら ～用と不用の美～ 」



1 子どもたちの生活の視点から

「美術って将来何の役に立つの?」という質問を1学期のスタートに質問されることが多い。こちらから逆質問をすると子どもたちからは「老後の楽しみ」「心を豊かにするため」「何かの職業に生かせるのではないか」といった多くの予想が返ってくる。子どもは美術の価値を漠然と感じている。

しかし、社会人と同様に子どもも時間に追われている。無駄や失敗の時間を恐れて、利益や効能の類を享受するためにどのようなコツがあるのであろうか『美術の攻略法』なるものを求めている。

「美術はあなた方の失敗を許します」～美を生み出す試行錯誤を分かち合いながら成長する場にしていきたい。

2 題材を設定するにあたって

日々の生活で用いる食器（カトラリー）を取り扱うことで、子どもたちにとって制作されたものを使う人・場について具体的にイメージしやすい。あわせて、美術、制作、デザイン、工芸、素材が自らの生活と結びついていることを1学年時に学習することで、主体的に学習へ向かっていく姿勢が身に付くと考えた。また、旭川市は家具の街であること。大小合わせて100以上の家具製造会社や工房が集まり、計画的な植林によって地元で十分に家具材が揃う。街の産業と密接に関わる木材～地域素材に目を向けさせる意味でも本題材を設定した。

3 題材のねらい

□おもう

「使ってみたい」…自分の生活に生きる形を考える

「美しい」…『在ること』そのものの美しさを追求しようとする

日常生活で使用しているもの（カトラリー）の美しさを見直す

□さぐる

「使いやすい」…用途・機能に合わせた構造・形を考える

素材の美しさを引き出し、強度を保った造形を工夫する

「使ってほしい」…自分や使用者の用途（生き方・過ごし方）を意識し、造形的に表現しようとする

□わかる

表現意図を汲み取る…なぜその形になったのか、コンセプトを伝え合う

作品を直接手に取り、肌触りやバランス、カトラリーの形と手の動きとの関連性を捉える

□なげる

地域で製作されている木工芸の作品を鑑賞する

木と私たちの生活との関係性について考えを深める

使用者と制作者の関わりと『より使いやすいもの・より美しいもの』を求めていくことを意識する

4 学習の流れ（8時間計画）

学習段階	学習活動	留意点	評価の観点
導入 1時間目	<ul style="list-style-type: none"> 旭川の木工芸の紹介 家具・カトラリーの鑑賞 使用する木材について 道具と加工法について 『カトラリー』の構想を練る 	<ul style="list-style-type: none"> 地域素材の良さや美しさ、地域の活動を関連させて伝える 使用者と使い道を意識しつつ美しさを追求するよう助言 	<p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用の目的に合わせた造形を考えているか
追求・発想・構想・制作等 2～7時間目	<ul style="list-style-type: none"> 切り出し刀の扱い 木材の美しさを引き出す塗装（身体に外のない塗料） うるしの美しさについて（木のぬくもりとは何か） 	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導に十分な時間をとる（止血法についても） 子どものアレルギーについては事前に把握しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な道具の扱いができているか 木目や強度を意識して形作っているか 丁寧な仕上げ作業に努めているか
相互鑑賞・自己評価など 8時間目	<ul style="list-style-type: none"> 構想シートを紹介し、クラス全体の質問や意見を交流する【グループ学習】 実際に作品を手にとって、良さや美しさについて話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 「ダメ出しにしても、思いやりが必要です」ともに良いものを目指して学習していく仲間への言葉選びを意識させる 	<p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間の表現から学ぼうとしているか 自分の作品の良さや美しさを、使用者の立場で具体的に考察できたか

5 制作の様子から

・「（スプーンの）皿の部分がなんかガタガタしてて嫌な感じで…」という A さんに対して「プリン食べるんだったら、ツルンって口に入るように先を薄く削ったらいいんじゃない？」と仲間アドバイスをしている様子が見られた。A さんは、スプーンの先を唇に当てて、「あと 3mm 薄くしよう」と言いながら小刀を動かし始めた。

目指す形が、動きや触覚を使って確認しながら追求できるので、子どもが納得しながら作業を進められた。

・「使用する」という制作の次の課題（目的）があることで、より鑑賞の内容が深まった。

他の分野においても『鑑賞（展示）されること』への意識が高まった。



6 題材をふりかえて

カトラリー制作の授業は、生活・地域と関連させながら子どもが主体的に関わる部分が大きく、考えや思いを巡らせながら作業に熱が入った。また、事後の聞き取り

から、自分が心を込めて創り出したものを持ち帰り、日常生活の中で使ったり（使われたり）楽しんだりすることで、今後の学びを深めていく導入にもなったと考える。今後、自分や生活（社会）との関連性を見出し、テーマを自らに引き寄せる力を身に付けるためには、思いをはたらせる題材を意図的・計画的に設定するとともに、子どもの生活を注意深く見つめていく必要があると感じた。

提言 中学校「おもう」

千歳市立勇舞中学校 3学年

「今、思う自分」

中学校「おもう」分科会

千歳市立勇舞中学校 渡邊 麻子



1 子どもたちの生活の視点から

中学校3年生は、9年間の義務教育を終える最後の1年。進路選択という重要な場面を迎えるにあたり、ほとんどの生徒が受験生として、周囲からのプレッシャーを感じながら不安を胸に抱えている。これまで経験したことのない壁に直面し、「自分は何か好きで、何がしたいのか。これからどうしたいのか」と自分について考えざるを得ない、嫌でも「自分と向き合わなければならない、そういう1年だ。また、すべての行事が「最後の〇〇」ということになり、「限られた時間」というものを意識する場面が多くなる。不安を抱える反面、これまで当たり前だと思っていたことの価値や楽しさに気づいたり、感謝の気持ちが生まれる特別な1年でもある。

2 題材を設定するにあたって

そんな中学校3年生に、自分自身をテーマにした制作を通して「自分とはなんだろう、と自身に問いかけ、見えない答えを探る時間」を保証し、子どもが自分について気づき、知り、理解するための手助けがしたい、出来るなら自己肯定感も持ってほしい、その思いで設定している題材。「自画像」は中学生が最も抵抗感をもつ題材といってもよい。けれど自分の姿を描かずに自分自身をテーマに表現するということは、実は「自分の中に大切にしていること、頑張っていること、夢などが明確に持てずにいる子ども」にとっては自画像以上に難しい。「自分の顔を直視して、上手に描かなければいけない」と思っている子どもに、見た目ではなく思いを表現してもらうこと、すべての子どもが自分の中に何か見つけられることを目指し、私自身試行錯誤しながら取り組んでいる。

3 題材のねらい

■おもう

- ・自分自身について真剣に考え、自分の内面を深く見つめ、テーマを選ぼうとする。
- ・自他の作品を鑑賞し、よさを感じ取ろうとする。

■さぐる

- ・表現したいテーマに合った色や形、技法を選び表現する。
- ・深い表現を目指し、重ねる、組み合わせるなど工夫する。

■つながる

- ・自己の表現を振り返り、思いを言葉にする（自己理解）。
- ・友達の作品を鑑賞し、思いや意図を感じ取ったり想像したりして、自分の言葉で表現する（他者理解）。

■つなげる

- ・自分を客観的にみつめる。
- ・思いを形や色に置き換えて表現する。伝える。

4 学習の流れ（15時間計画）

学習段階	学習活動	留意点	評価の観点
導入 一時間	<ul style="list-style-type: none"> 先輩の作品を鑑賞し、それぞれのテーマを理解する 自分自身について考え、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者の思いに注目して紹介する 似ている似ていないは二の次 内面に目を向けるきっかけとなるように声をかける 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート ワークシート
追求・発想・構想・制作等 十二時間	<ul style="list-style-type: none"> 「今思う自分」はどんな自分か考えテーマを決める。 テーマを表現するための方法、技法表現の仕方の構想を練り、工夫と試行錯誤を重ねて表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「今の自分」「理想の自分」「未来の自分」など色々な視点から深めていく 単純化や強調等デフォルメも含めた多様な表現から選べるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチ 振り返りシート 観察・コミュニケーション 作品
相互鑑賞・自己評価など 一時間	<ul style="list-style-type: none"> 制作を振り返り、タイトルカードを制作する。 友達の作品を鑑賞し、鑑賞カードに記入する。 制作、鑑賞を通して感じたことをまとめシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い、その思いをどう表現したかったかを問う。 技術的なことよりも「思い」について想像したり感じ取ったりしながら観るように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> タイトルカード 鑑賞カード まとめ評価シート

5 制作の様子から

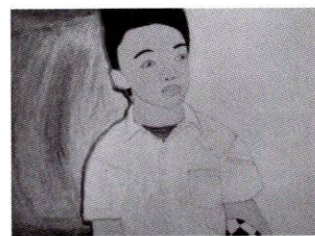
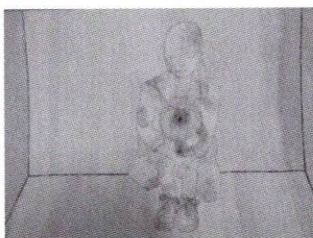
<制作を終えて>より

- 「今までの美術の中でも一番大変だったけれど達成感がすごかった。～将来や過去、現在の自分についてしっかり考えられた。制作を終えて中学校生活が終わってしまうんだなと少しさみしい気持ちになった。」
- 「自分がこれからやりたいことがわかった。目に見えない気持ちを目に見えるように表現することは面白かった。」

<鑑賞会を終えて>より

- 「それぞれ色んな思いがあるんだなって思った。背景とかはその気持ちの色が表現されていたりでとてもいい作品だらけだった。普段の一面じゃないところも見れてよかった。『明日』（Sくんのタイトルカードより）」
- 「ためだった自分を見返したくて、背景を黒から黄色に変わる表現にしました。千里の道も一歩から。今日から明日へ。」

※S君は学校を休みがちで登校中いなくなり、公園で見つかったりトイレにこもるようなうつむきがちな生徒だった。



自分の作品

6 題材をふりかえて

多くの生徒が、自分（姿・形・表情）を描くことに苦戦した。けれど、完成後のまとめシートに「自分について考えることが出来た」「自分について少しだけどわかった」といった内容を書いた生徒がほとんどだった。導入の段階から「似顔絵じゃないから、自分に似ていなくていい」と繰り返し伝え、制作中は「上手な作品より、よい作品を作ろう」と励ました。自画像は生徒にとっても私にとっても抵抗感と困難をとまなうハードルの高い題材であり、「挑戦」だ。でも、それを乗り越えたとき（技術的にだけでなく精神的に）、その子の成長を最も感じる事が出来る題材だ。また私にとっても制作の過程を通し、最も子どもとの距離が縮まる貴重な題材だと思っている。

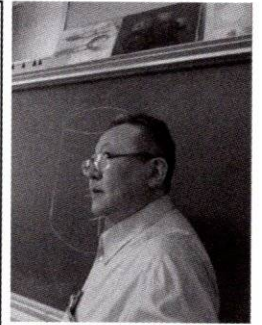
提言 高校 「つなげる」

北海道深川西高等学校 3学年

「 絵本を作る 」

高校 「つなげる」分科会

北海道深川西高等学校 野村幸伸



1 子どもたちの生活の視点から

高校生にとって美術の時間は、何を学ぶ時間だろうかという事を考える。

転勤し一番最初に出会った声は今日は何をやるの？から始まり、次どうするの？先生どうですか？であった。

身の周りの事象と表現は繋がっている。

美術を通して体験し、社会との繋がりを感じ、自分で考え答えを生み出す事を実感出来るようになって始めて力がついていくと考える。

私たちが子どもに関われる時間は、子どもたちの人生のほんの僅かな時間であるが、制作の中で自分の可能性を発揮出来る教科でもあるので好きだという子が多い。

だからこそ、美術の時間は好きを大切に出来る時間にしたいと思う。

2 題材を設定するにあたって

作者が身の周りの事を意識出来るよう、作品を通して他者と関係を作る課題とした。

自分の作品を作る事でもあるが、他者も作品を通して楽しさを共有すると言う事を考える制作とした。

導入にあたり具体的な対象を示すことで制作へのリサーチも必要になるので、イメージしやすい対象と工夫のしやすい題材として絵本を設定した。

また、ワークシートを活用し主体的な活動となるように個別の題材設定に関わる記述や制作計画を立て、評価の観点と関連させ活用した。

3 題材のねらい

■おもう

対象を考え題材を設定する。

対象に伝えたい事を対象の視点で考える。

- 自己の伝えたい事を簡潔に整理する。

■さぐる

対象の視点で考え適切な表現を考える。

- 発達段階など自分の幼少期を考える。

■つなげる

伝わる表現について考える事は経験がないので手探りとなる。

可能な限り相手を具体的に意識出来るよう助言し既知の知識を活用する。

- どのように何を伝えたいか考え表現する。

■つながる

他者のメッセージを見て自己の目標がどの程度達成出来たかを知る。

大事な事は思いを伝える手段として相手を考え、どのように作るかを考える。

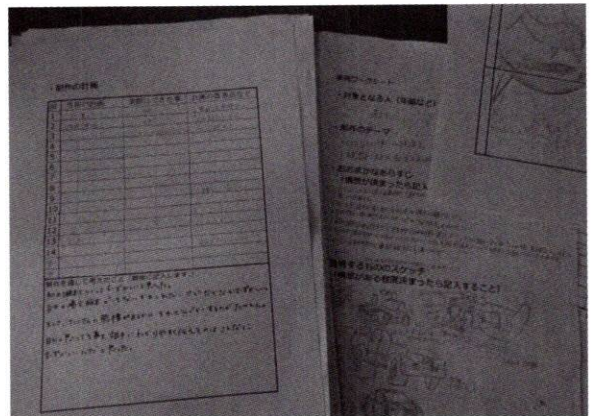
- 相手のメッセージから自分の制作を振り返り感じた事を言語化する。

4 学習の流れ（14時間計画）

学習段階		学習活動	留意点	評価の観点
(例) 導入	一時間	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解 理解したことをワークシートに反映させる 	<ul style="list-style-type: none"> 記述に対する助言 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を理解し、自己の考えを整理する事が出来たか
追求・発想・構想・制作等	十二・五時間	<ul style="list-style-type: none"> 対象のリサーチ 制作の計画 	<ul style="list-style-type: none"> 気づきに対する助言 内容や表現への助言 	<ul style="list-style-type: none"> 対象を考え自己の表現を考える事が出来たか 制作と計画を考える事が出来たか
相互鑑賞・自己評価など	〇・五時間	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品として考えた事と他者の感じた事を 	<ul style="list-style-type: none"> 気づきに対する助言 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の気づきを整理する事が出来たか

5 制作の様子から

- 対象が具体的に身近なものとなった為、構想段階で「子どもってどうだっけ」と言う声が多くあり、自分の作品で制作している時より深く考えている様子が見えかけた。
- 他者が実際に観て楽しむ事を考え表現や言葉を工夫しようとしていた。
- 主題生成が出来ようになり計画を見通した制作活動が出来ようになった。
- 展示して他者が観る事を伝えた時、生徒たちは最初本気していなかったが、本当だと分かった時から制作時の表情が変わった事。
- 実際に展示し効果的に観ていただけるように場所を協力していただいた事。
また、他者より得た感想を生徒に届ける事が出来た事。



6 題材をふりかえて

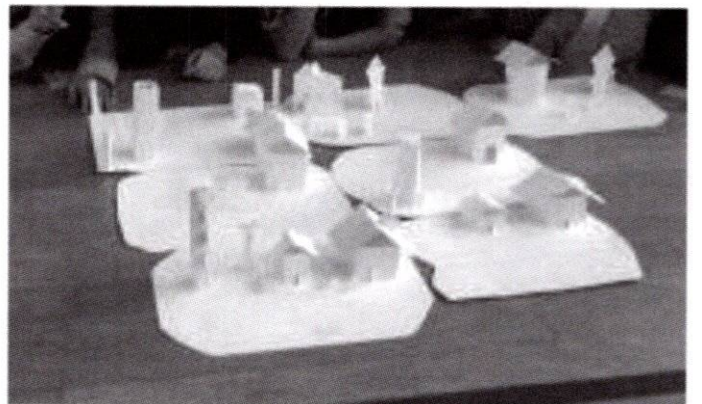
今回は、「絵本」制作から他者との繋がりをテーマとしたが、他の表現領域でも出来るので、より理解しやすい題材を導入の為に探していこうと思った。

A 表現と B 鑑賞の相互の関連を学習活動に生かす事で主体的な学習の効果は上がると考える。

生徒が美術の学びが何であるかを具体的に理解出来る工夫の必要性を感じた。

他者との繋がりがや社会との繋がりを身近な対象を通して知る事で、多様な手段から選択し自己の思いを豊かに表現する能力が身につくと考えた。

Memo



各地区 サークルの活動



平成29年度 活動報告

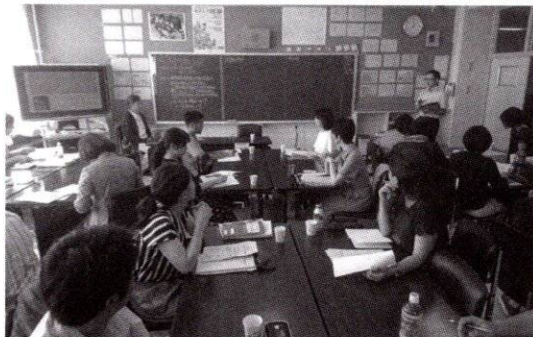
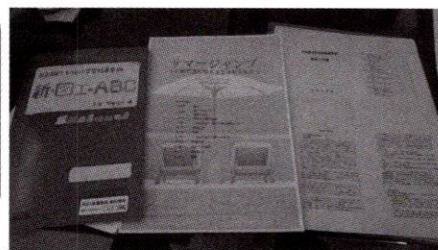
札幌市造形教育連盟

この子が 感じる=考える=表す

～造形的な見方・考え方を豊かにする学びを目指して～



Team Hokkaido



サマージャンプ（新学習指導要領の学習会）

2017年8月9日10月

講師：阿部宏行先生（北海道教育大学） 館内徹先生（西岡中学校）

新研究主題の構築のために、学習指導要領の改訂についての学習会を3回にわたり実施した。

全連盟員に参加を呼びかけ、毎回20名程度が参加し、これからの造形活動での重点について学ぶことができた。

オータムジャンプ（研究全体会）

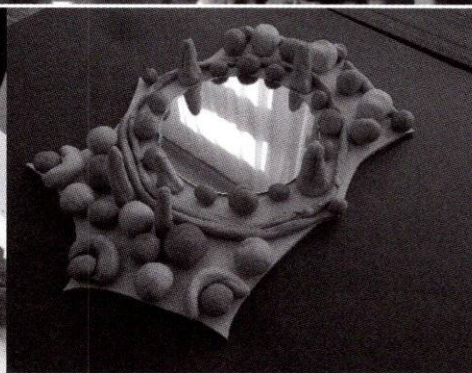
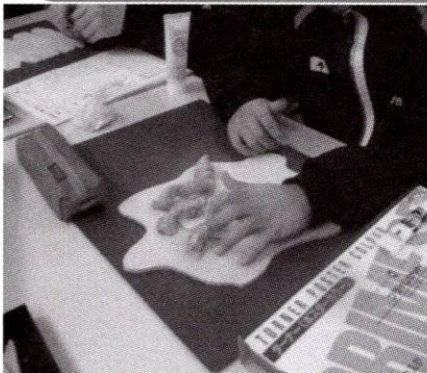
2017年11月28日 授業者 伊藤彩乃先生 札幌市立真駒内中学校

題材 1年 「〇〇な気持ちになる鏡」

サマージャンプで学んだことから考えた研究主題（案）を基にした授業実践。「〇〇な気持ちになる鏡」をイメージし、イメージしたことを形や色で表していく題材を構成した。

中学校での授業公開を行ったことで、小学校の先生方の「中学生の造形活動」への理解を深めることができた。

題材研究では、製作を「はじめから完成まで」を体験する大切さについて改めて感じた。



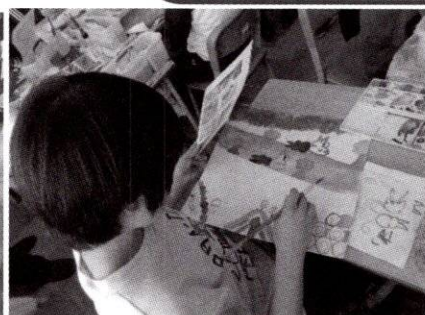
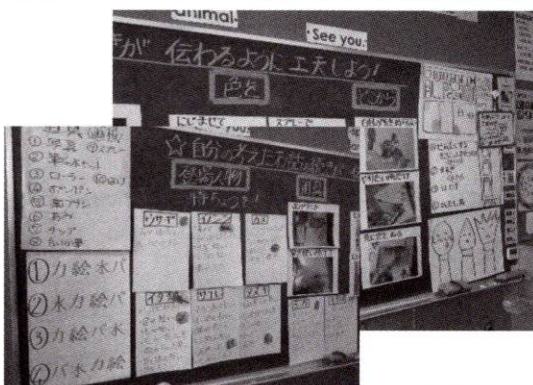
ウィンタージャンプ（研究全体会）

2018年2月20日 授業者 森實祐里先生 札幌市立星置東小学校

題材 4年 「想像を広げて」

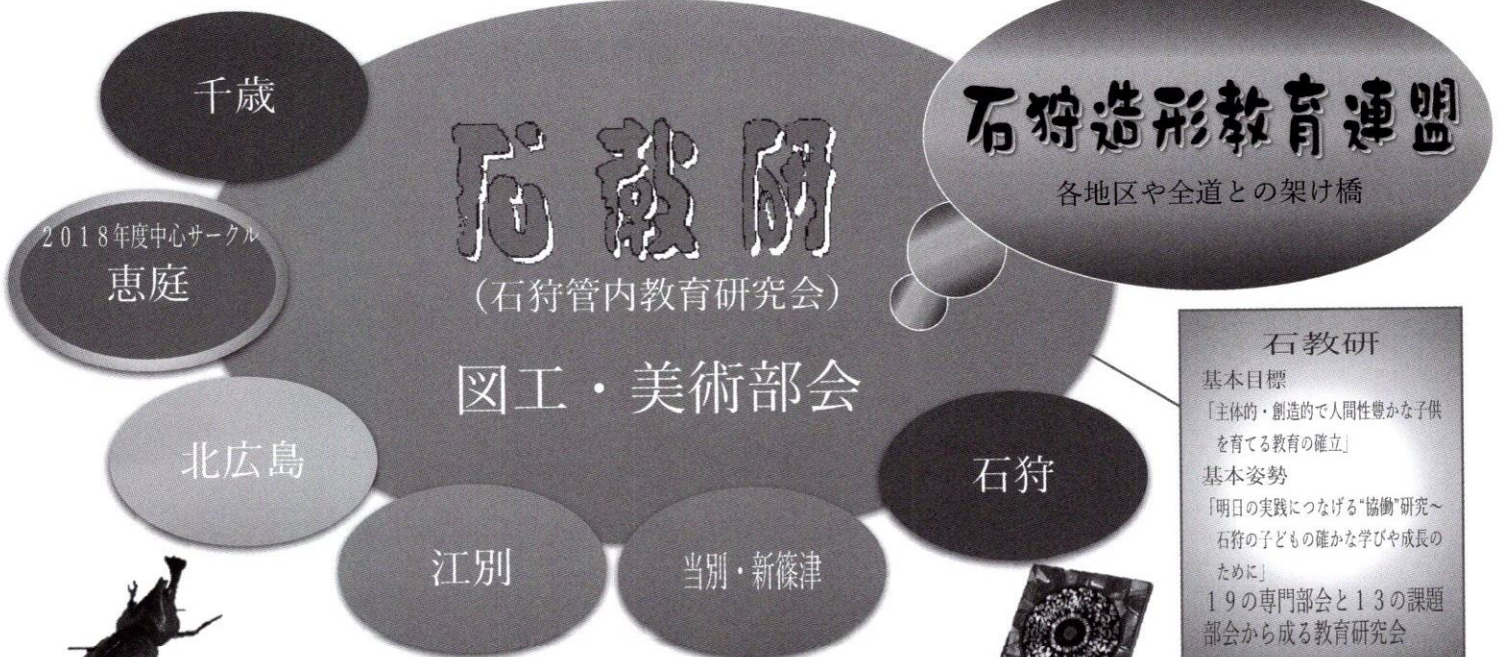
オータムジャンプでの成果と課題をを受けて考えた研究主題及び視点（案）を基にした授業実践。「お話の絵」。お話の続きを考えて絵に表すため、子どもたちが想像を広げながら表現する姿が見られた。

視点1の『子どもが「もっと！こうしたい！」を生むための題材化』の有効性が明らかとなった。

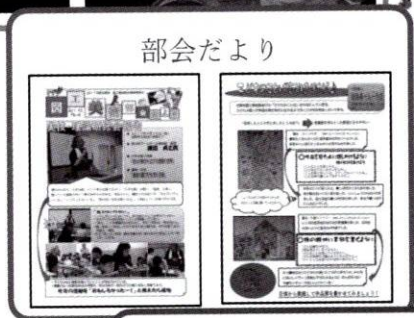




2018年度 研究主題
大切なものをつくり出すために
 「何のために」つくり
 「何ができるように」なり
 「どんな価値を生み出す」のか



石教研
 基本目標
 「主体的・創造的で人間性豊かな子供を育てる教育の確立」
 基本姿勢
 「明日の実践につなげる“協働”研究～石狩の子どもの確かな学びや成長のために」
 19の専門部会と13の課題部会から成る教育研究会



空知美術教育研究会

研究主題「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」
～基調 持ち寄り、語ることから始めよう～



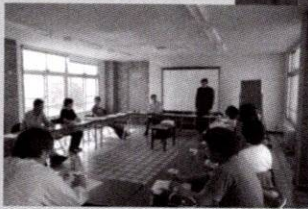
空知美術教育研究会

4月・5月 空美総会・研修会

4月1日次年度全道大会 PR 動画撮影から始まった新年度



5月20日
空美総会・研修会



第54回
全空知
子どもの作品を語る会
浦臼小大会
10月31日

出前図工室」

- ・小学校低：村山尚子先生
「どこにかくれているのかな」(絵画)
- ・小学校中：中澤孝仁先生
「くねくねランド」(造形)
- ・小学校高：岩井敦子先生
「私の中のふるさと～うらうす」(立体)

「題材屋台」

- ・栗田友恵先生「アルミホイール動物の卵」
- ・池田香奈先生「鋳物レジン」
- ・桔梗智恵美先生「世界に一つだけの缶バッジをつくろう」
- ・阿部宏行先生「ワクワク題材を考えよう」



子どもの作品を語る会



8月10日11日(毎年固定)

熱く美術教育を語る会 ～深川市 アートホール東洲館

実技講座
講師：三重 岡中克史先生

「暮らしの中のバターナイフ」

実践の交流・小中合同での
「子どもの作品を語る会」
道内外の参加・リピーターも

コテージ宿泊有
(今年も実施しますどうぞ一緒に)



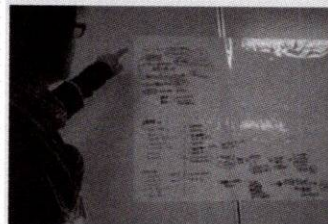
新春ゼミ 1月7日(毎年固定)

岩見沢研修センター

「対話を描く

～空美的ファシリテーショングラフィック」

美唄市立美唄中学校 伊藤記子先生





上川造形教育研究会 昨年度の活動から

第15回上川造形教育研究大会開催 平成29年11月15日(水)

富良野市立富良野市東中学校(参加者16名)

研究テーマ 「わたしの喜び」あふれる造形活動

研究主題 創造の喜びを実感できる造形活動をめざして

目指す子供像 豊かに感じ、思いを膨らませ、つくる喜びを味わう子

公開授業 「マイキャラクター」 中学2年生、立体デザイン(授業者 渡邊 万紀)

概要 ゆるキャラをテーマに、ペットボトルのキャップの上ののるサイズの「マイキャラ」を樹脂粘土で制作する。公開授業では、マッピングで自分を分析し、アイディアスケッチを経た上で、グループ活動で友達と意見交流してデザインをまとめる場面を研究協議した。

授業後の反省から

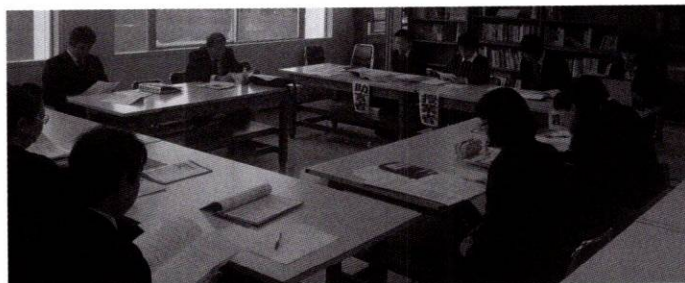
- ・アイディアスケッチと意見交流のタイミングを考えることが大切。
- ・意見交流の目的を明確にすることが大切。(作品の向上、他者理解、自分の作品の良さの再発見など)
- ・アドバイス(教師のも含む)に影響されすぎてしまうデメリットをどうすべきか。
- ・素材を試す時間をどう確保するか。

新研究テーマ 『「わたし」を映す』

～自己を見つめ、表す造形活動～

研究主題 自分を表し、価値を見出す造形活動をめざして

目指す子供像 豊かに感じ、思いを膨らませ、つくる喜びを味わう子



2018



Team Hokkaido

旭川市教育研究会図工美術部会



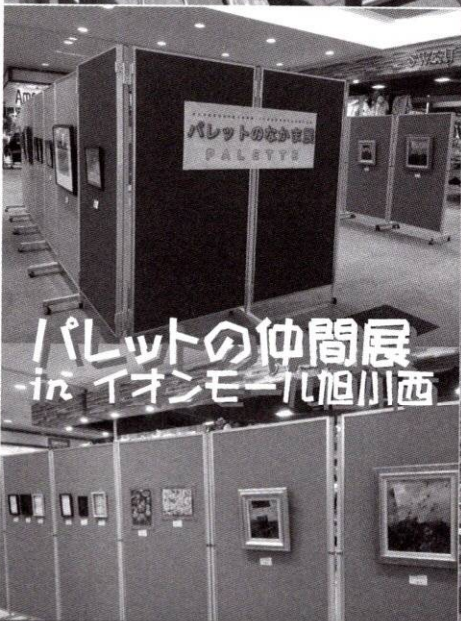
彫刻巡回出前授業



図工美術部10月研
&
実技講習



写真実技講習会
in 旭山動物園



パレットの仲間展
in イオンモール旭川西



児童生徒作品展 審査研修会

来年は...

第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会

2019年7月30日(火)

場 所 旭川市立永山中学校						
・(北海道旭川市永山7条19丁目)						
・旭川駅から会場校までのシャトルバスを運行します!						
参加費 4,000円(予定)						
日 程						
受付	研 討 式	授業①	授業②	開 会 式	造形まつり in 全道造形 展 覧	分科会 研修 セッション
9:00	9:30	10:30	11:30	12:00	14:00	16:00 18:00

平成29年度 活動報告

研究主題

子どもの豊かな発想から ワクワクを創造する造形教育

部員数 小学校7名 中学校5名 計12名

2018



Team Hokkaido

留萌地方美術教育研究会

10月24日 第47回留萌管内造形研究大会
「篆刻 一印と立体で表す3年間」(留萌中学校3年生)

抽象彫刻のデザイン立案の授業を公開しました。立方体を削り、様々な形を考案する過程で、悩んだり、つまずいたりしながら、発想の転換の必要性を理解し、手を動かすことを楽しみながらアイデアを考案しました。

生徒達の様子

生徒達は初めての抽象彫刻に戸惑いながらも、自分にとって感情移入しやすく、気持ちよい形を模索することに熱中していました。

授業後の反省から

授業者の仁木教諭からは「図工・美術というものは、設定した時間で「生徒が何を成し遂げるのか」を意識させて活動を行うことが大切であると学べた。」と反省が挙がりました。

作品を語る会(10月24日研究授業後)

作品を語る会は、部員が集まって作品を語る貴重な機会です。スクラッチ技術を活用した自画像や針金を使った図工作品など、各校の先生方の工夫を凝らした作品を持ち寄り交流しました。

“何かを創り出す時の原動力は、
ワクワクする心”



平成29年度 活動報告

函館市美術教育研究会

研究主題 夢はぐくむ造形活動

研究実践報告・実技研修会・美術館連携授業など

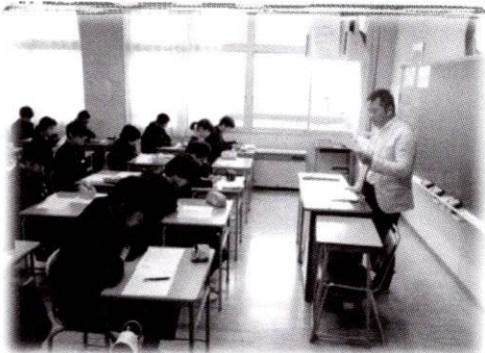


活動内容

研究授業

【ギンボと呼ばれた少年・田辺三重松作品鑑賞(中2)】

深堀中学校：佐々木壮一先生



函館ゆかりの作家「田辺三重松」を題材にして、鑑賞支援ツール「アートカード」を使って授業をしました。生徒がカードを通して、田辺三重松の大胆なタッチや色使いについて学ぶことができました。

実技研修

【弥生小学校：山形弘枝先生 カラー紙版画】



カラー版画を題材に子ども達への助言の仕方・道具の使い方・指導のコツを過去の作品を提示して教えていただいたり、実際に実演をしていただきました。



児童生徒作品展

函館市小中学校児童生徒美術展を芸術ホールで開催しました。出品校15校、出品作品数549点、2日間の観客動員数808名になりました。

絵画の他、版画や写真、立体造形など個性豊かな作品が多く展示されていました。

写生展&美術館研修

市内の棒ニテパートをお借りしての写生展や美術館の展示会期ごとに行われる教員のための美術館研修(学芸員によるギャラリートーク)なども行われました。





研究テーマ

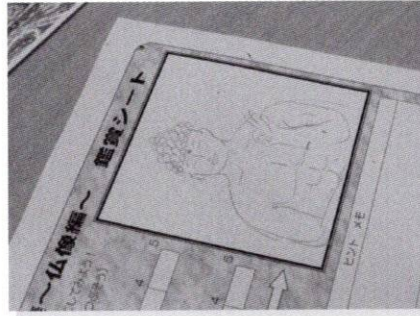
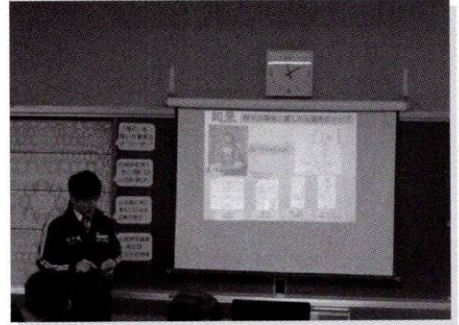
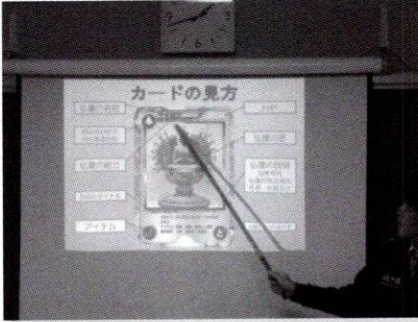
「夢・つくる・人 ～未来はくくむ造形教育～」

主な活動

研究授業、児童生徒美術展、美術鑑賞会など

研究授業：「日本の美～仏像編」

北斗市立浜分中学校・九千房政光 教諭



渡島児童生徒美術展 ～ 北斗市総合文化センター
「かなで～る」





平成29年度 活動報告

豊かに発想し、主体的に造形表現できる児童生徒の育成

～「児童生徒の資質・能力を高めるための造形活動」を工夫した授業を通して～

実技講習会 8月4日

「子供が生き生き！鑑賞の授業」

講師：日高町立日高小学校

教頭 岩崎 愛彦

授業公開研究会

11月28日

3年生 美術「自分と向き合う(自画像)」

授業者：平取町立平取中学校 教諭 下重 美加紗

日高の子供の作品を語る会(実践交流会)

1月26日 日高町立富川中学校

平成29年度 活動報告

研究テーマ「豊かな表現力の育成」

・研究サークル合同研究会 ・十勝子ども大会 ・美術館連携など

部員数 24名 ※小学校6名(管理職1名含む) 中学校18名(管理職1名含む)

2018

Team Hokkaido

十勝造形サークル

十勝子ども大会(図工・美術作品展) 11/8～12 場所:幕別町百年記念ホール

サークル員がほぼ全員集まるメインイベントです。
応募された1514点(小996/中518)を審査し、絵画・
工作・工芸・彫刻・版画・デザイン、302点を展示し
ました。

第47回十勝管内教育研究 サークル合同研究会

「思いを伝える
～スクラッチアート～」

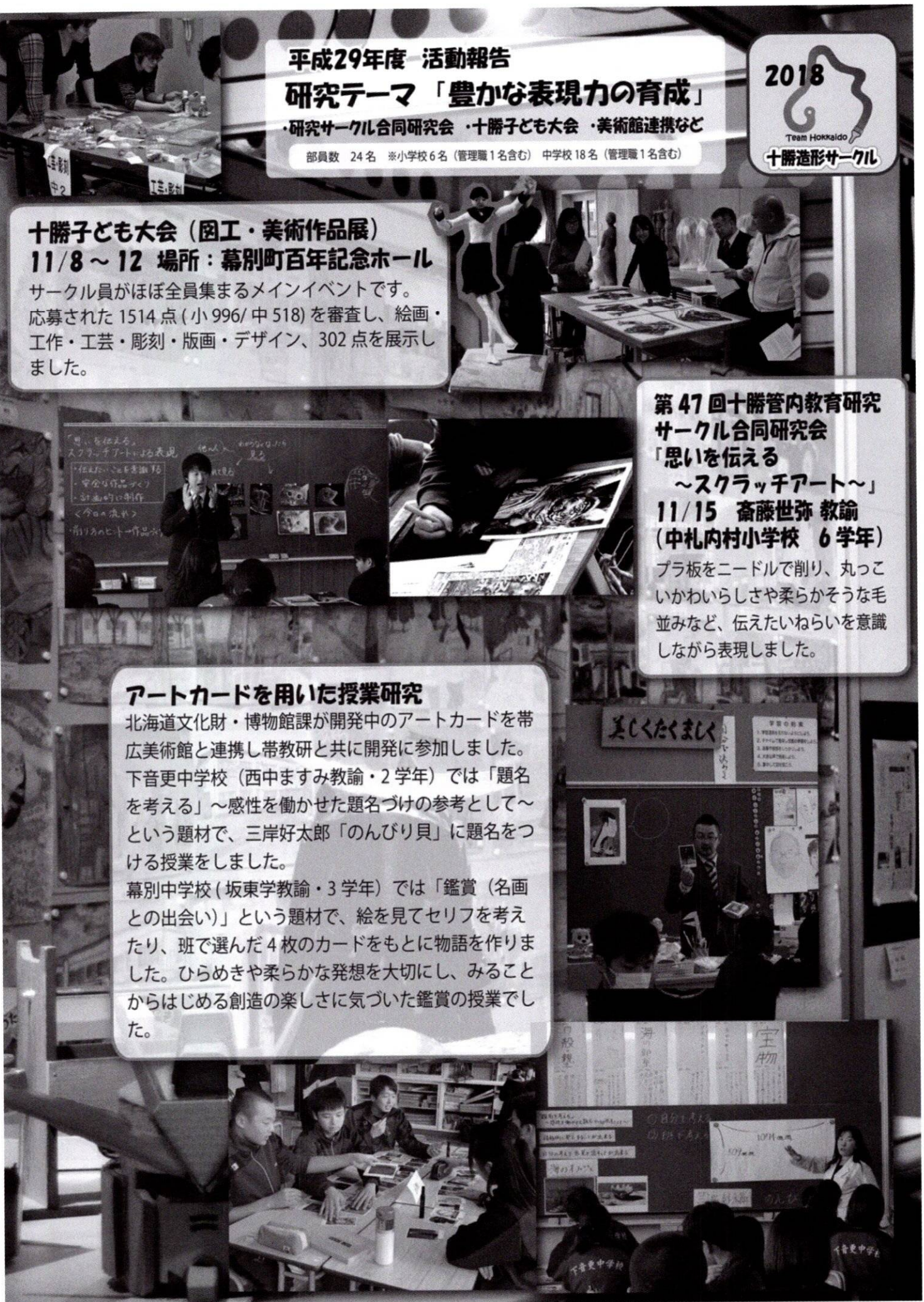
11/15 斎藤世弥 教諭
(中札内村小学校 6学年)

プラ板をニードルで削り、丸っこ
いかわいらしさや柔らかそうな毛
並みなど、伝えたいねらいを意識
しながら表現しました。

アートカードを用いた授業研究

北海道文化財・博物館課が開発中のアートカードを帯
広美術館と連携し帯教研と共に開発に参加しました。
下音更中学校(西中ますみ教諭・2学年)では「題名
を考える」～感性を働かせた題名づけの参考として～
という題材で、三岸好太郎「のんびり貝」に題名をつ
ける授業をしました。

幕別中学校(坂東学教諭・3学年)では「鑑賞(名画
との出会い)」という題材で、絵を見てセリフを考え
たり、班で選んだ4枚のカードをもとに物語を作りま
した。ひらめきや柔らかな発想を大切に、みること
からはじめる創造の楽しさに気づいた鑑賞の授業でし
た。



2018



Team Hokkaido
帯広市教育研究会図工美術部会

帯広市教育研究会

図工美術部会

70名・31校所属

作品交流研修

帯広市小中学校造形展

昨年度47回目を迎えた帯広市小中学校造形展。市内すべての小中学校43校が参加し、2000点を超える作品が展示されます。6日間の来場者数約2500名。多くの皆さんに子どもたちの作品を見ていただく機会となっています。

部会の柱、作品交流研修。昨年度は、版画の刷りについての研修、小中学校の交流、水彩画の描き方など、日頃の実践を交流しました。所属するすべての学校が実践発表に取り組みます。

研究テーマ 豊かな心をはぐくむ造形教育

授業研究

昨年度の授業研究では帯広美術館・十勝造形サークルと連携し、「アートカード」を活用した授業に取り組みました。

今年度で第4回目を迎える市内中学校合同写生会・展覧会鑑賞。帯広駅周辺で写生会を行います。毎年約100名の中学生が参加。作品は市民ギャラリーに展示します。

市内中学校写生会 展覧会鑑賞



2017年7月27日(木)
全道造形教育研究大会釧路大会
会場：釧路市立共栄小学校
幼・小・中・高あわせて7授業を公開。



たくさんのご参加
ありがとうございました！



2017年6月27日(火) **実技研修会①小学校での絵の描き方指導**
会場：附属釧路中学校 更科先生を講師に、絵の具の使い方を実践しました。

2018年1月20日(土)
実技研修会②陶芸体験
会場：生涯学習センター
市立美術館の学芸員さん
にご指導いただきました。



資料



□ 北海道造形教育連盟規約

1.名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道の造形教育の振興を図るをもって目的とする

2.事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う

- ①研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
- ②造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
- ③会報の発行
- ④他の造形教育団体との連絡提携
- ⑤その他、本連盟の目的達成に必要と認められる事項

3.会員

会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4.組織

地区サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する
本部 本連盟の本部は、札幌に置く

5.構成及び任務

①役員

会長 1名 本連盟を代表する
副会長 若干名 会長を補佐する
会計監査 2名 会計の監査をする

②委員

地区委員長 地区1名 地区サークルを代表する
地区委員 地区1名 地区サークルの連絡調整にあたる
(地区委員は、地区委員長を兼務してもかまわない)
常任委員 若干名 会長が委嘱し、本連盟の運営に当たる

③顧問

顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる
部長 各部推進の要として常任委員より会長が委嘱し、会務の分掌及び執行にあたる

6.選任

会長、副会長、会計監査は委員総会で選出する
地区委員長及び地区委員は、地区サークルで選出する
常任委員は会長の委嘱による
顧問は委員総会において委嘱する

7.任期

役員及び委員の任期は1カ年とする、但し再任を妨げない

8.会議

総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する
委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する
常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する
役員会 会長、副会長、事務局長、会計により構成し、必要に応じ会の運営について協議する
部長会 本部役員、各部部长により構成し、必要に応じ各部事業等についての連絡調整を行う

9.会計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する
会費 会員は、一人年額2,000円を納入するものとする
地区サークルは、年額10,000円を納入するものとする

10.事務局

事務局は事務局長在勤の学校に置く
事務局長は常任委員中より会長が委嘱する
事務局には必要に応じで各部を設け、業務を分担する
事務局に事務局次長、会計担当を置く

11.年度

本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる

12.規約の改廃

規約の改廃に当たっては特別委員会(規約改正委員会)を設け、規約改正案を総会に提出する
本規約の改廃は委員総会の決議による

(平成6年4月29日改訂)
(平成19年4月28日改訂)
(平成21年4月総会にて改訂)

全道造形教育研究大会のあゆみ

年	回	開催地	テ - マ	委員 長 会 長	備 考
1949年			(札幌美術連盟組織 全国図画工作教育講習会)		
1951年	第1回	札幌	情操教育の一環としての本道図画工作教育の進展を図るため	初代 野村 英夫	北海道美術教育会と改称 第1回全道図画工作教育研究集会
1952年	第2回	札幌	図画工作教育の新思想である創造主義美術教育の諸問題について		北海道図画工作連盟創立
1953年	第3回	旭川	美術教育の指導とは何か		
1954年	第4回	函館	図画工作教育実践上の諸問題について		
1955年	第5回	釧路	図画工作教育における学習指導上の問題の解明		
1956年	第6回	札幌	造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか		
1957年	第7回	室蘭	のぞましい造形教育における具体的諸問題について		
1958年	第8回	小樽	図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか		
1959年	第9回	帯広	新段階における造形教育のあり方		北海道造形教育連盟と改称
1960年	第10回	網走	本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう		
1961年	第11回	滝川	子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか		
1962年	第12回	名寄	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1963年	第13回	余市	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1964年	第14回	札幌	子どもの創造能力とは何か	第2代 新妻 清	
1965年	第15回	稚内	子どもの創造能力とは何か		
1966年	第16回	室蘭	子どもの創造能力とは何か	第3代 赤石 武士	
1967年	第17回	函館	指導の構築を具体化する		
1968年	第18回	苫小牧	指導の構築を具体化する		
1969年	第19回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第4代 和田 芳郎	
1970年	第20回	旭川	ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか		
1971年	第21回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第5代 伊東 将夫	
1972年	第22回	帯広	未来に生きる子どもの造形教育 (生活に根ざした造形教育をどう高めるか)	第6代 高橋 栄吉	
1973年	第23回	室蘭	未来に生きる子どもの造形教育 (たしかな表現力をどのように育てるか)		
1974年	第24回	美幌	未来に生きる子どもの造形教育 (ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか)		第1回教育美術展
1975年	第25回	江別	未来に生きる子どもの造形教育 (自ら創り出す力をどう育てるか)		
1976年	第26回	岩見沢	未来に生きる子どもの造形教育 (すべての子どもに造形のよろこびを)		第1回立体造形展
1977年	第27回	札幌	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践		
1978年	第28回	函館	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践 (すべての子どもが生き生きとくむ学習)	第7代 辻 悦平	
1979年	第29回	旭川	生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方		
1980年	第30回	苫小牧	ひろがりやと深まりの造形教育を求めて		
1981年	第31回	釧路	創りだす心をよびおこす造形教育		
1982年	第32回	室蘭	見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを	第8代 遠藤 久男	
1983年	第33回	留萌	生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動		

年	回	開催地	テ - マ	委員 長 会 長	備 考
1984年	第34回	札幌	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び)	第9代 種市誠次郎	
1985年	第35回	函館	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子どもを育てる)		
1986年	第36回	旭川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)	第10代 森川 昭夫	第39回全国造形教育研究大会をかねる
1987年	第37回	紋別	子どもの心をゆり動かす造形教育 (表現のよこびにひたる子どもを育てる)	第11代 松島 輝男	
1988年	第38回	滝川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)		
1989年	第39回	帯広	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)	第12代 金井 秀男	
1990年	第40回	苫小牧	広がり、深まり、そして感動を！		
1991年	第41回	札幌	子どもの個性的表現を授ける造形教育 (子どものつくる喜びをひらく)	第13代 佐々木理温	
1992年	第42回	函館	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)		
1993年	第43回	旭川	思いをあたため心はずませる創る喜びを	第14代 鹿嶋 健	
1994年	第44回	釧路	心ときめく、創造の喜びを求めて		
1995年	第45回	千歳	豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を	第15代 船着 昭弘	
1996年	第46回	札幌	～造形＝愛感美遊創 in 札幌～ 自らの心を拓く造形学習の在り方	第16代 白井 罔毅	
1997年	第47回	根室	感性から発し躍動する力を育む造形学習を！	第17代 吉田 倭雄	
1998年	第48回	留萌	楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し寄り 添う指導	第18代 芝木 秀昭	
1999年	第49回	網走	オホーツク発 思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～		
2000年	第50回	函館	心の風景（ビジョン）の発信を！ ～豊かな自分づくりを生かす想創活動～		
2001年	第51回	札幌	風よ、大地よ、夢よ、北からはじまる造形の未来 ～（いま）（ここ）（わたし）を基軸にして造形の未来をつくる		第54回全国造形教育研究大会をかねる
2002年	第52回	帯広	広い大地に紡ぐ夢 豊かな感性をはぐくむ造形教育	第19代 藤井 正治	
2003年	第53回	滝川	つくる喜びを実感できる造形教育		
2004年	第54回	旭川	豊かに感じ、おもいをふくらませあらかず喜びを 生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～	第20代 富田 泰	
2005年	第55回	函館	めざめる感性（こころ）きらめく個性（かたち） 地域空間がいざなう造形活動のひろがり	第21代 今 裕子	
2006年	第56回	札幌	楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育		
2007年	第57回	釧路	「できた！」「いいね！」の喜びが息づく時間を求めて ～つくる喜び、感動する心をつなげていく造形教育～		
2008年	第58回	北広島	豊かな心と確かな力を育む造形教育を！	第22代 菅原 清貴	
2009年	第59回	旭川	身体で感じ・心はずませ・創造する喜びを ～「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて		規約改正により委員長を会長に改称
2010年	第60回	函館	創造！ときめき！実感！ ～感性と知性の出会い心うるおす造形活動～		
2011年	第61回	札幌	“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～		第64回全国造形教育研究大会をかねる
2012年	第62回	帯広	つくるとき・つながるとき ～豊かな心をはぐくむ造形教育～	第23代 稲實 順	
2013年	第63回	石狩	豊かな心と確かな力を育む造形教育 ～子どもの「こうしたい！」があふれる授業を通して～		
2014年	第64回	旭川	『「わたし」の喜び』あふれる造形活動	第24代 安木 尚博	
2015年	第65回	函館	夢・つくる・人 ～未来をはぐくむ造形教育～	第25代 三井 哲	
2016年	第66回	札幌	“すき”が輝く造形活動		
2017年	第67回	釧路	わたしをつなぐ造形活動の時間 ～想いを豊かに育む造形活動の展開～	第26代 阿部 時彦	

平成30年度 北海道造形教育連盟役員名簿

会		長	森長	弘美	札幌市立前田北中学校			
副	会	長	山田	浩人	石狩市立樽川中学校			
	"		吉中	博道	士別市立多寄小学校			
	"		谷口	光伸	函館市立北昭和小学校			
	"		藤森	久美	札幌市立前田中央小学校			
	"		石割	章浩	新得町立新得中学校			
会	計	監	査	鎌田	俊博	江別市立大麻西小学校		
	"			滝本	都子	増毛町立増毛小学校		
会	計	長	福島	由紀子	札幌市立西岡北小学校			
会	計	次	長	櫻田	悟	札幌市立盤溪小学校		
事	務	局	長	東	尚典	札幌市立有明小学校		
事	務	局	次	長	堀口	基一	札幌市立桑園小学校	
	"			寺田	実	札幌市立平岡緑中学校		
	"			湯浅	大吾	札幌市立鴻城小学校		
	"			池田	武彦	札幌市立南白石小学校		
	"			平井	歩	札幌市立月寒中学校		
庶	務	部	部	長	森	久根	札幌市立西野小学校	
庶	務	部	副	部	長	黒川	友理	札幌市立栄西小学校
広	報	部	部	長	篠原	貴	札幌市立桑園小学校	
広	報	部	副	部	長	小林	知広	札幌市立手稲山口小学校
研	究	部	部	長	中村	珠世	北海道教育大学附属札幌小学校	
研究部	副部長	(研究部門)		菊地	惟史	札幌市立円山小学校		
		(教育美術展部門)		佐藤	和音	札幌市立伏見小学校		
		(ネットワーク部門)		舘内	徹	札幌市立西岡中学校		
		(研修部門)		石川	早苗	札幌市立啓明中学校		
顧		問	阿部	賢一	北見市			
	"		阿部	宏行	札幌市			
	"		阿部	時彦	札幌市			
	"		石井	久	函館市			
	"		伊藤	恵	札幌市			
	"		伊藤	英明	札幌市			
	"		伊藤	正敏	札幌市			
	"		伊藤	善彬	札幌市			
	"		稲實	順	札幌市			
	"		繪面	和子	函館市			
	"		小野	三枝子	釧路市			
	"		岡澤	邦彦	札幌市			

顧

問

	加藤 雅子	札幌市
〃	金井 秀男	札幌市
〃	桑田 正博	江別市
〃	今 裕子	札幌市
〃	近藤 貢	函館市
〃	齊藤 隆博	帯広市
〃	佐藤吉五郎	札幌市
〃	佐藤 靖	札幌市
〃	櫻田 豊	札幌市
〃	芝木 秀昭	札幌市
〃	島田 茂	札幌市
〃	庄 栄一	札幌市
〃	白井 圀毅	江別市
〃	菅原 清貴	札幌市
〃	菅原 良和	旭川市
〃	角力山 旭	札幌市
〃	関 建治	恵庭市
〃	武田 誠	七飯町
〃	多田 紘一	札幌市
〃	塚野 昭臣	札幌市
〃	土谷 敬	函館市
〃	寺嶋 文憲	札幌市
〃	寺本 吉明	芽室町
〃	出村 保	留萌市
〃	伝住 修一	江別市
〃	土井 勝典	石狩市
〃	土井 善範	札幌市
〃	富田 賢司	札幌市
〃	富田 泰	札幌市
〃	墓田 充泰	札幌市
〃	橋詰 博	札幌市
〃	早弓 弘行	滝川市
〃	藤井 正治	江別市
〃	宝輪 勝巳	釧路市
〃	松島 輝男	札幌市
〃	三谷 哲司	札幌市
〃	三井 哲	札幌市
〃	村瀬 千樞	札幌市
〃	安木 尚博	札幌市
〃	山口 長伸	別海町
〃	吉田 倭雄	札幌市
〃	米谷 哲夫	札幌市
〃	若竹 隆邦	函館市

□ 各地区サークル（地区代表・地区委員・ネットワーク担当者）

ブロック	サークル名・役名	氏名	市町村	勤務校	郵便番号	学校住所	学校電話		
札幌	札幌市造形教育連盟 会長	藤森 久美	札幌市	前田中央小	長	006-0818	札幌市手稲区前田8条12丁目2-1	011-681-4811	
	” 事務局長	勝田 真塩	札幌市	琴似中	長	063-0004	札幌市西区山の手4条2丁目1-1	011-611-1351	
	” ネットワーク担当	矢野 宜利	札幌市	北都小		003-0833	札幌市白石区北郷3条11丁目7-1	011-874-3014	
道央	石狩造形教育連盟 委員長	山田 浩人	石狩市	樽川中	長	061-3256	石狩市樽川6条3丁目600	0133-74-2352	
	” 事務局長	山口 浩	恵庭市	柏小	長	061-1425	恵庭市文京町3丁目3-3	0123-32-3579	
	” ネットワーク担当	竹田 睦生	江別市	野幌若葉小		069-0831	江別市野幌若葉町5-3	011-385-3131	
	空知美術教育研究会 会長	高田 宏昭	岩見沢市	第一小	長	068-0046	岩見沢市緑町3丁目7-1	0126-22-0360	
	” 事務局長	遠藤 孝之	赤平市	赤間小		079-1133	赤平市字豊里32	0125-32-3330	
	” ネットワーク担当	桔梗 智恵美	芦別市	芦別小		075-0012	芦別市北2条東1丁目1	0124-22-2573	
	後志教育研究会 図工美術部会 委員長	嶋影 哲弥	小樽市	奥沢小		047-0013	小樽市奥沢2丁目5-1	0134-23-6295	
	道北	上川造形教育研究会 会長	吉中 博道	士別市	多寄小	長	098-0475	多寄町37線西2	0165-26-2151
		” 事務局長	藤原 賢	富良野市	樹海中		076-0202	富良野市東山共栄	0167-27-2107
” ネットワーク担当		庄子 展弘	上富良野町	上富良野中		071-0553	旭町1丁目1-5	0167-45-2072	
旭川市教育研究会 図工美術研究部 委員長		成田 慎司	旭川市	明星中		070-0025	旭川市東5条1丁目	0166-26-0468	
” 事務局長・ネットワーク担当		西村 徳清	旭川市	神居中		070-8014	旭川市神居4条5丁目1-8	0166-61-7261	
留萌地方美術教育研究会 会長		滝本 都子	増毛町	増毛小	頭	077-0225	増毛町南暑寒町2丁目38	0164-53-2174	
” 事務局長		小澤 なつき	留萌市	留萌小		077-0038	留萌市寿町2丁目10	0164-42-1720	
” ネットワーク担当		米澤 卓也	増毛町	増毛中		077-0296	増毛町南暑寒町5丁目	0164-53-1269	
道南		渡島美術教育研究会 会長	仲井 靖典	知内町	知内中	長	049-1103	知内町重内22-1	01392-5-5024
	幹事長・ネットワーク担当	高島 純	森町	森中		049-2311	森町上台町326-1	01374-2-2406	
	函館市美術教育研究会 会長	谷口 光伸	函館市	北昭和小	長	041-0812	函館市昭和4丁目38-1	0138-45-1070	
	” 筆頭幹事	木村 伸仁	函館市	南本通小		041-0851	函館市本通3丁目10-1	0138-55-1281	
	” 幹事	水島 賢久	函館市	北日吉小		041-0841	函館市日吉町4丁目5-5	0138-55-0924	
	” 幹事	後藤 征秀	函館市	亀田中		041-0806	函館市美原3丁目30-3	0138-46-3005	
	” ネットワーク担当	佐々木 壮一	函館市	深堀中		042-0941	函館市深堀町28-1	0138-52-2682	
	檜山管内造形教育研究会 会長	晴山 泰史	上ノ国町	河北小	長	049-0624	上ノ国町中須田920-6	0139-55-2151	
	” 事務局長	吉川 聖	江差町	南が丘小	頭	043-0063	江差町南浜町370	0139-52-0524	
	” ネットワーク担当	山本 裕子	今金町	今金小		049-4308	今金町今金108	0137-82-0224	

	サークル名・役名	氏名	市町村	勤務校	郵便番号	学校住所	学校電話
道南	室蘭市教育研究会造形部 部長	山代 直美	室蘭市	蘭北小	050-0063	室蘭市港北町4丁目13-1	0143-58-1125
	苫小牧市教育研究会 造形研究部 部会長	川口 洋司	苫小牧市	樽前小	059-1265	苫小牧市樽前102	0144-67-3755
	〃 幹事長	藤本 拓	苫小牧市	緑小	053-0042	苫小牧市三光町2丁目6-5	0144-32-6501
	日高造形教育研究会 会長	神成 浩	日高町	富川中	長 055-0001	日高町富川北7丁目3-6	01456-2-0026
	〃 事務局長	岩崎 愛彦	日高町	日高小	頭 055-2307	日高町松風町2丁目254	01457-6-2620
	〃 ネットワーク担当	岩崎 愛彦	日高町	日高小	頭 055-2307	日高町松風町2丁目254	01457-6-2620
道東	十勝造形サークル委員長	石割 章浩	新得町	新得中	長 081-0034	新得町西4条南1丁目1	0156-64-5621
	〃 事務局長・ネットワーク担当	村中 鉄也	広尾町	広尾中	089-2624	広尾町並木通東1丁目11番地	01558-2-2089
	帯広市教育研究会 図工美術部 部長	黒田 正則	帯広市	川西中	長 089-1182	帯広市川西町西3線60	0155-59-2014
	〃 事務局長・ネットワーク担当	梅津 美香	帯広市	西陵中	080-0028	帯広市西18条南2丁目2	0155-33-3007
	釧路造形教育研究会 会長	佐々木 幸	釧路市	教育大学 釧路校	教授 085-0580	釧路市城山1丁目15-55	0154-44-3205
	〃 事務局長	杉山 浩彰	釧路市	青陵中	085-0814	釧路市緑ヶ岡6丁目9-42	0154-46-1161
	〃 ネットワーク担当	更科 結希	釧路市	附属釧路中	085-0805	釧路市桜ヶ岡7丁目12-2	0154-91-6812
	オホーツク造形教育連盟 委員長	小野寺哲浩	北見市	錦水小	長 093-0215	北見市常呂町字岐阜329番地	0152-54-2391
	〃 事務局長	小久保哲也	網走市	第三中	093-0042	網走市潮見188番地	0152-44-8738
	〃 ネットワーク担当	塩浦 亜紀	湧別町	開盛小	099-6503	湧別町開盛462-3	01586-2-5204
	根室造形教育連盟 会長	外川 篤司	中標津町	中標津小	086-1129	中標津町西9条北1丁目2	0153-72-2565
	〃 事務局長	安井 加奈子	中標津町	広陵中	086-1010	中標津町東1〇条南7丁目1	0153-73-3161
〃 ネットワーク担当	品田 ちよみ	標津町	標津中	086-1651	標津町南1条西3丁目1-5	0153-82-2083	

□ 地区サークルのない管内

道北	宗谷管内個人会員	遠藤 大輔	猿払村	拓心中	098-6234	鬼志別北町184	01635-2-3231
----	----------	-------	-----	-----	----------	----------	--------------

□ 事務局

〒004-0821	札幌市清田区有明141-2	TEL	011-881-2949
	札幌市立有明小学校	校長	FAX 011-881-9074
	事務局長	東 尚典	
	HPアドレス	http://hokuzou.kir.jp	
	eメール	hisanori.azuma@city.sapporo.jp	

第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会運営名簿

大会長	森長 弘美	札幌市立前田北中学校		
副大会長	山田 浩人	石狩市立樽川中学校	藤森 久美	札幌市立前田中央小学校
	吉中 博道	士別市立多寄小学校	石割 章浩	新得町立新得中学校
	谷口 光伸	函館市立北昭和小学校		
顧問	枝広 健二	空知美術教育研究会	白井 万壽子	岩見沢絵画ホール松島正幸記念館
運営委員長	鎌田 俊博	江別市立大麻西小学校		
副運営委員長	高田 宏昭	岩見沢市立第一小学校	芳賀 伸吾	滝川市立第二小学校
	佐藤 祈	岩見沢市立北真小学校		
事務局	舘山 唯郎	美唄市立茶志内小学校	桐 淵 則行	岩見沢市立光陵中学校
	遠藤 孝之	赤平市立赤間小学校	池田 香奈	岩見沢市立明成中学校
	岩城 晶恵	芦別市立啓成中学校		
研究広報部	桔梗 智恵美	芦別市立芦別小学校	中澤 孝仁	岩見沢市立中央小学校
	伊藤 記子	美唄市立美唄中学校	金子 智里	砂川市立石山中学校
	上杉 真智子	美唄市立茶志内小学校	本間 真紀	妹背牛町立妹背牛小学校
	栗田 友恵	深川市立一已小学校	西野 和美	砂川市立空知太小学校
	大津 充紗子	よいこのくに幼稚園	金子 英里	よいこのくに幼稚園
	村山 尚子	深川市立多度志小学校	佐々木 紗	岩見沢市立中央小学校
	大野 寛文	岩見沢市立中央小学校	橋本 幸枝	夕張市立夕張中学校
	棚田 将史	北海道岩見沢緑陵高校		
事業会場部	岩田 智弘	南幌町立南幌中学校	岩井 敦子	岩見沢市立豊中学校
	三森 彩美	岩見沢市立光陵中学校	石出 亜矢子	美唄市立中央小学校
	松井 りおか	滝川市立明苑中学校	辰口 敦子	新十津川町立新十津川小学校
	廣川 充	芦別市立芦別小学校	伊藤 晃	栗山町立角田小学校
	今 正 敏	美唄市立東中学校	高橋 里美	妹背牛町立妹背牛小学校

(岩見沢市立光陵中学校教職員、岩見沢市立中央小学校教職員)

株式会社 遠藤教材社

〒068-0028 岩見沢市 8条西 6丁目

TEL (0126) 2 2 - 2 8 2 3

FAX (0126) 2 2 - 6 4 4 9



SUPPORT CREATION

美術出版エデュケーショナルは「サポートクリエーション」を合言葉に、
日本を元気にする子どもたちの発想力、創作力、感性を育み、
“創意工夫”することの楽しさが伝わる図工・美術教育を応援していきます。

BSSカタログ2018 図工・美術

図工・美術の授業で使われる教材・備品、
画材などが満載の美術出版カタログ最新
版です。ご希望の方は、弊社ウェブサイト
をご覧ください。

授業や制作に役立つ情報発信中!

美術出版レシビ 検索

<http://www.bijutsu.co.jp>



美術出版エデュケーショナル
bijutsu shuppan Educational

〒178-0065 東京都練馬区西大泉5-29-15
電話:03-5947-6101 FAX:03-3867-3071

第68回

全道造形教育研究大会空知岩見沢大会

大会要項・研究紀要

2018 (平成30) 年7月27日発行

発行者 第68回全道造形教育研究大会
空知岩見沢大会運営委員会
運営委員長 鎌田 俊博
空知美術教育研究会
会長 高田 宏昭

事務局 美唄市立茶志内小学校
事務局長 舘山唯郎

TEL 0126-65-2120

Spirit of Wonder
Pentel

ぺんてる



30%が環境にやさしい
水性 アクリル
絵の具



400ml入り
■単色(普通色 全24色)
●WXGT色番号
各色 ¥1,800(税別) ¥880
(蛍光色 全6色)
各色 ¥1,570(税別) ¥1,500
■12色セット:
¥11,000(税別) ¥10,560
●WXG-12

さまざまな素材に

着色できる

共同用 樹脂えのぐ

●水で薄めて使用する事ができます。
(薄める量は、30%位が最適です。)
●美しいマット調の仕上がりが得られます。
●乾燥後は耐水性にすぐれております。
●木・段ボール・布・発泡スチロール・石・
ペットボトル・あき缶など様々な素材に
着色できます。
●共同制作に最適なえのぐです。

●立体的表現・造形遊びに
【●学校行事に】

■単色表

色番号	01	03	04	05	06	08	09	10	11	12	13	14	15	17	21	22	23	24	25	28	29	37	61	68	79	81	82	83	84	85	90	91
色	白	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄
名	白	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄

12色セット

●色見本は印刷ですので実際の色と多少異なる場合があります。●印の色は色調を基準としている為、製作時に異なります。

